

研修資料

話し合い

令和4年度
第66号



静岡県PTA連絡協議会

研修資料

話し合い



家庭・学校・地域がつながりあって子どもを育てるPTA活動の推進
～ 今だからこそ深めよう、人と人とのつながり・絆 ～

静岡県PTA連絡協議会

は じ め に

令和4年度県P連研修資料「話し合い」が出来上がりました。

長引くコロナ禍でPTA活動も思うように進まない中でしたが、特色ある18の実践事例を皆様にお届けすることができました。

さて、県P連では、単位PTAの負担軽減と県P連の経費の削減を目指して事業の見直しに取り組んでまいりました。その結果、令和3年度第2回理事会において、令和4年度以降の「話し合い」は隔年発行とし、各単位PTAに一部無償配布することが決定いたしました。したがって、従来のように購入希望を募ることは致しません。

具体的には、静岡県PTA連絡協議会研究大会が実施される年度には研究実験委嘱PTAの発表資料が発行されるため、大会が行われない年度に「話し合い」を発行することになります。この第66号は、令和3年度中に事例提供をお願いしているため、沼津大会開催の令和4年度に発行しますが、第67号は令和5年度に発行し、令和6年度から隔年発行となります。

また、装丁は、研究実験委嘱PTAの発表資料と同じくA4版とし、各事例は1PTA見開き2ページを原則といたします。

広い静岡県内では、地域の特色や学区の事情、そこに通う児童生徒の実態やPTA会員の意識など様々な違いがあり、抱えている課題もそれぞれです。しかし、それらの根底にある「次代を担う子ども達のために、家庭・学校・地域等が情報を共有し、協働してよりよい教育環境をつくりあげていきたい」という願いは共通していると思います。

本誌には、そんな熱き思いのもとで、子どもたちのために創意と工夫を凝らして取り組んだ貴重な実践事例が綴られています。ぜひお手元に置いていただき、PTAの研修や実践活動の一助にさせていただきますようお願いいたします。

また、貴重な事例を提供して下さった執筆者の皆様並びに関係者の方々に心から御礼申し上げます。

令和4年5月

静岡県PTA連絡協議会

令和3・4年度 静岡県PTA活動方針と重点

○ 活動方針

家庭・学校・地域がつながりあって 子どもを育てるPTA活動の推進 ～ 今だからこそ深めよう、人と人とのつながり・絆 ～

(設定理由)

令和2年度の県P連の活動は、全世界を席卷したコロナ禍のもとにあって前例のない異例続きのものとなりました。3か月にも及ぶ休校措置を受けて子どもたちは、友達や先生とも会えない、集まれない、そして進級した喜びを分かち合うこともできない新年度のはじまりでした。

年度当初の教育活動はもちろんPTA活動においても、当たり前のように流れていた時間が止まり、空間が断たれ、「例年踏襲」が難しい状況を経験することになりました。

それは、否応なしに活動の見直しを考えることにつながり、結果的に令和1・2年度の、サブテーマ「～PTA活動の未来像を研究しよう～」の具現化を推し進める形となりました。

この「今までのようにはできないピンチ」が「新しい方法を模索するチャンス」となり、各単位PTAにおいても、時代や状況に対応した大胆なアイデアやチャレンジによって、「参加しやすい、やってよかったPTA活動」の模索が今も続いています。

コロナがもたらした「新しい生活様式」は、人と人との物理的な距離を遠ざけ、マスクで笑顔を隠し、近くで思いを伝えあう機会を奪う側面を持っています。しかし、私たちの大切な子どもたちは、温かい言葉を交わしたり、表情でつながりあったりしないでは健全に成長することはできません。そして、日々子育てに奮闘する保護者も然りです。

先行き不安な今だからこそ、困ったときに助けてくれる人がいる、孤独ではない、そして自分の考えを理解し、尊重してくれる人がいる……そんな安心感や絆を深められるPTAの仲間でありたいと思います。

そこで本年度からは、「新しいつながり方」を模索し、情報の共有や意思の疎通をより深めていきたいと思います。それはまず、対面して語り合うことで生まれる温度感や一体感の大切さを再認識し、効果的な場面設定を工夫していくことから始まります。そのうえで、会合への参加の仕方や役割分担などを、各単位PTAの状況や社会の変化に応じて思い切って変えてみることも必要でしょう。

このような「新しいつながり方」への小さなチャレンジが、会員一人一人の「それなら自分にもできる」という参画意識や「仲間と一緒に創り上げた」という絆の実感につながっていくことを願うものです。

○ 重点事項

領 域	重 点
1 PTA 組 織 と 運 営	(1) 会員意識の高揚を図ろう。 (2) 魅力ある組織と運営を目指そう。 (3) 父親の活動への積極的参加を推進しよう。
2 家 庭 教 育	(1) 「教育の原点は家庭にある」との認識に立ち、社会規範の育成・基本的生活態度の定着・思いやりの心の育成・心身の逞しさの育成等に努力しよう。 (2) 家庭・学校・地域との連携を図り、心豊かな子どもの育成に努力しよう。 (3) 子どもが心地よい居場所を持てる温かな家庭を創り、親子の絆を深めよう。
3 教 育 環 境	(1) 情報機器（PC・携帯電話等）の正しい使い方を身に付けさせよう。 (2) 関係機関と連携し、子どもを取り巻く環境浄化に努めよう。（TV・図書・広告等） (3) 学校・地域の（人的・自然）教育環境をよくしよう。
4 人権・共生	(1) 命の尊さ、他を思いやる豊かな心を育む活動を推進しよう。 (2) 家庭・学校・地域が連携して人権共生意識の高揚を図ろう。 (3) 他団体とも連携し、いじめや虐待・暴力を根絶しよう。
5 健康・安全	(1) 心身ともに健康な子どもを育てよう努力しよう。 (2) 子どもの食生活の向上に努力しよう。 (3) 学校・地域・警察等と連携し、子どもを危険から守ろう。（交通安全・防犯等）
6 広 報 活 動	(1) 魅力ある広報紙を工夫しよう。 (2) 会員を繋ぎ、意識を高め、役に立つ情報を提供する広報活動に努力しよう。 (3) 情報化時代に適応する多様な情報提供を工夫しよう。
7 地 域 連 携	(1) 地域の特色を生かした子どもの社会参加を支援しよう。 (2) PTA・学校・地域を結ぶネットワークづくりに努力しよう。 (3) 子どものボランティア精神の育成を図ろう。
8 多文化共生	(1) 郷土を愛するとともに、他国の様々な文化も尊重できる子どもを育てよう。 (2) 様々な国の人たちと交流できる活動を推進しよう。 (3) 交流体験を通じてコミュニケーション能力を育成しよう。
9 学 校 教 育 へ の 協 力	(1) 教育改革への理解を深めよう。 (2) 学校の教育活動と関わり、「生きる力」を育む支援や協力を努めよう。 (3) PTAが、学校と地域社会の接点にあることを理解し、地域を取り込んで学校を支援しよう。

も く じ

○はじめに	3
○令和3・4年度静岡県PTA活動方針と重点	4

〈東部地区実践事例〉

(1) 子どものためにできることを	10
下田市立下田小学校	教頭 桑原 光
(2) 学校教育への協力	12
～ 保護者及び地域社会による学校支援 ～	
伊豆市立修善寺中学校	教頭 駿藤 衛
(3) 子どもが笑顔になるPTA活動	14
伊東市立池小学校	教頭 萩原 義勝
(4) できるときに、できることを	16
～ 令和の時代の持続可能な新しいPTAのあり方をもとめて～	
三島市立山田小学校三島市PTA連絡協議会 副会長	寺野下 昌秀
(5) コロナ禍だからこそ横のつながりを	19
清水町立清水中学校	PTA会長 村田 貴治
(6) コロナ禍でのPTA活動「維持・継続するもの」と「変えていいもの」	21
裾野市立深良小学校	PTA会長 薄井 康夫
(7) 学校・家庭・地域と連携したPTA活動	23
沼津市立大岡小学校	教頭 北尾 揚子
(8) 家庭教育学級の取組	25
御殿場市立西中学校	PTA会長 皆川 達哉
家庭教育学級長	常喜 由夏利
(9) 子供の笑顔の為に家庭・学校・地域ができるPTA活動	27
富士市立須津中学校	PTA会長 小林 絵美
(10) コロナ禍でのPTA活動について	29
富士宮市立大富士小学校	PTA会長 菅沼田 洋光

〈中部地区実践事例〉

(11) 地域との共生 学校とPTA	32
～ 未来を見据えた子どもたち～	
静岡市立清水第四中学校	PTA顧問 畠山 英明
(12) 子供たちの笑顔のために	34
～ コロナ禍でのPTA活動～	
焼津市立焼津東小学校	PTA会長 吉田 克則
(13) 心つよく 心やさしい子を育むために	36
～ 力を合わせてチャレンジランキング！～	
藤枝市立葉梨小学校	PTA会長 八坂 知子
(14) 繋げよう 笑顔の輪	38
島田市立島田第三小学校	PTA会長 初鹿野 佳奈

〈西部地区実践事例〉

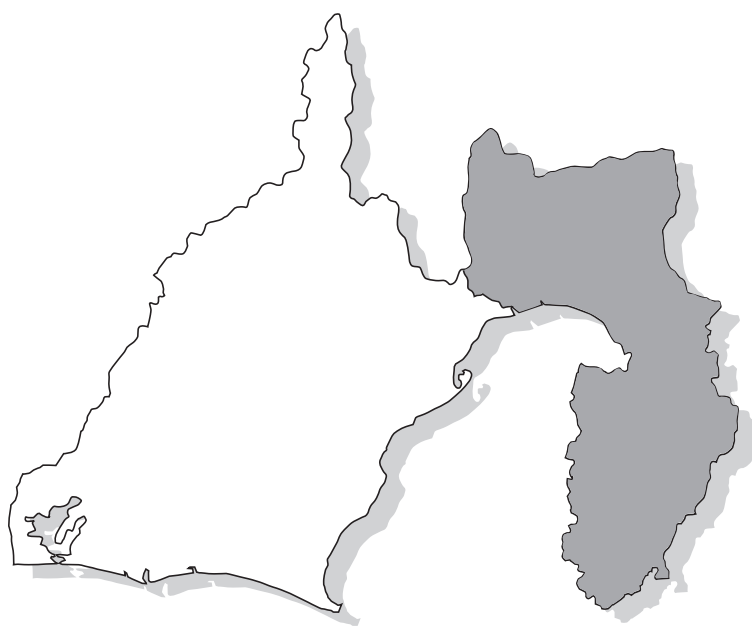
- (15) 地域に支えられるPTA活動 42
森町立旭が丘中学校 PTA会長 井口 寧了
- (16) ピンチをチャンスに変えて 45
～ 新型コロナウイルスによる制限下での新たなPTA活動の模索～
磐田市立富士見小学校 PTA会長 木村 光男
- (17) 学校と家庭・地域をつなぐPTA活動 47
湖西市立知波田小学校 教頭 山本 ゆかり
- (18) 子供達・先生方・理事みんなが楽しめるPTA活動を 49
～ コロナ禍でも子供達の笑顔のために～
浜松市立和田小学校 PTA会長 高橋 靖博

〈表紙の作品紹介〉

「第26回 静岡県児童・生徒紙上美術展」推奨作品より

左上	静岡市立松野小学校	1年	山中 颯太	「三びきのやぎの がらがらどん」
左下	掛川市立第一小学校	4年	平野 堅梧	「月をめがけてレッツゴー」
中央	下田市立下田東中学校	3年	土屋 結音	「返り咲く未来」
右上	御殿場市立富士岡小学校	5年	勝又 月雫	「保健室で友達の手当てをする私」
右下	浜松市立平山小学校	2年	山口 大雅	「なかよしのライオン」

(学校・学年は受賞当時)



〈実践事例提供：東部地区〉

- 下田市立下田小学校
- 伊豆市立修善寺中学校
- 伊東市立池小学校
- 三島市立山田小学校
- 清水町立清水中学校
- 裾野市立深良小学校
- 沼津市立大岡小学校
- 御殿場市立西中学校
- 富士市立須津中学校
- 富士宮市立大富士小学校

子どものためにできることを

下田市立下田小学校 教頭 桑原 光

1 はじめに

下田小学校は、観光の町として知られる下田市の中央に位置し、ペリーロードや了仙寺、長楽寺をはじめとした、開国の歴史漂う街並みと豊かな自然に囲まれている。下田小学校校歌には、開国の歴史だけでなく、下田市と関わり深い中根東里や下岡蓮杖らが登場する。先人の志を受け継ぎ、「自分も他の人も大事にし、失敗を恐れず何度でも挑戦してみんなで伸びていく心優しくたくましい下田の子」、「自ら考える下田っ子」の育成を目指して教育活動を展開している。



開国の歴史漂う街並み

2 活動のねらい

本校は、これまで4つの委員会を立て、様々な教育場面でPTAの協力を得ながら、子どもたちの教育活動を支えてきた。

ところが、急激な児童数減少に伴い、PTA会員数も年々減少してきた。また、核家族や一人親家庭の増加、終日勤務する母親が増える等、各家庭のあり方が多様化し、これまでと同様にPTA活動を続けていくことが困難となってきた。

そのような中であっても、災害や交通事故、感染症の流行等課題は山積し、安全を守る活動のように、子どもを育て、守るために大切に続けていかなければならない活動がある。組織の改編や活動の見直しを図りつつも、「子どもたちの教育環境を守るため続けていきたい活動」や「形を変えて実施したい活動」のような視点で見直しを図りつつ、学校と保護者が連携して子どものためにできることを探り、実践していく。

以下成果を上げた活動の一部を紹介していく。

3 活動の内容

① よりよい教育環境作りを進めるために大切に続けたい活動

ア 地区親子活動

地区親子活動委員会は、17地区の地区長から成る。地区長は、地区会を開き、祭事や子ども会の運営、廃品回収など、各地区の取組を進めている。また、子どもの安全を守るために、入学児のための集団登校を呼び掛けたり、毎朝交通量の多い危険な横断歩道の見守りをしたりしている。地区長はローテーションを決め、全家庭が参加できるよう調整する役割を果たしている。雨の日も、暑さ寒さの厳しい日も、「子どもたちも頑張っているのだから。」と時には家族の協力を仰ぎながらもこの活動が続いていることに頭が下がる。

また、地区親子活動委員会がまとめた、交通当番に向けた「安全指導の心得」や、通学路の危険箇所や危険を回避し推奨する通学路を示した「PTA通学路の申し送り事項」は、委員総会にて保護者と教員で見直しと確認を続けている。入学説明会やPTA総会にて全会員に示し、子どもへの交通安全指導に活かされている。子どもの安全を守るためにこれからも見直しを図りつつ引き継いでいきたいものである。

イ HOT☆読

「HOT☆読」は有志による読書ボランティアで、子どもたちの読書活動推進のために読書推進担当教員や学期毎回数勤務する司書と連携しつつ活動している。壊れた本の修理や新しく購入した本の整理、図書の分類等、子ども



PTA 通学路の申し送り事項

たちが利用しやすい図書室作りを進め読書環境を整えている。時には図書室を訪れた子どもたちに利用指導をしたり、悩み事を聞いたりしてくれるので、「HOT☆読」活動日に好んで図書室を訪れる子どももいる。

「子どもの身近に本を」という願いから、教室近くに本棚や読書コーナーを設置し、楽しい雰囲気の中で本が読めるように掲示を工夫したり、本を入れ替えたりする等、読書環境作りが進んでいる。さらに、図書便りを発行するなど、子どもたちが読書の時間を楽しめるようにと地道な活動を続けている。



読書コーナー

② 気軽に参加できるように形を変えつつある活動

ア 委員相互の連携を図る学年親子活動

家庭教育学級として、各学年の幹事が中心となって、親子で参加できる活動を企画運営している。これまで全校を対象にした活動が実施されてきたが、家庭生活の変化により夜間に実施されることが増え、参加者も限られるようになった。そこで、気軽に親子で実施でき、ふれあいの機会を得られることと、会員の多くが参加可能になることから、参観会等を利用した授業の一環としての親子活動を残していくことになった。

・親子防災教室

賀茂危機安全管理局より講師を招き、地震が起きたらどのようなようになるのか、地震が起きたときにどのように行動したらよいかを親子で考えた。起震車体験も含め地震への心構えや備えを親子で見直し考える機会となった。

・働く人にインタビュー

国語科のインタビューしたことをもとに自分の考えをまとめる学習と、総合キャリア教育に関わる学習を兼ね、担任と保護者が連携して実施した親子活動である。

子どもたちが興味を持った職業について、ゲストや保護者にインタビューをする場面では、子どもも真剣だったが、何よりゲストが自身の職業についてその苦労や努力などを語る姿は輝いていて、人生の先輩とのふれあいを通して、子どもたちが自分の未来について考える機会となった。



働く人にインタビュー

4 成果と課題

新型コロナウイルス感染症の影響により実施できなくなったPTA活動がたくさんあった。そのような中でも、PTA会長を中心として、運営委員会にて、心配なことや改善したいことなど各委員が保護者の代表として意見を述べ、話し合う雰囲気がある。

また、それぞれの委員会も、子どもたちのためにできることを企画し、実行に向かうパワーを有している。本校の活動は、活動の中心となる委員の学校教育への理解と意欲に支えられて成り立っており、そのおかげで子どもを取り巻く環境が守られている。

会員数の減少に伴い、活動を精査し、委員会の数を整理する中で、委員会やPTAの自治的な活動を減らさなければならなかったことは非常に残念であるが、皆が無理なく参加できるように考えるきっかけとなった。

当初、スリム化することにより活動の活性化を抑止することになってしまうというリスクが心配されたが、「やられている、やらなければならない活動」という意識が払拭され、「できることをできるときにやっぺいこう」という前向きな活動となり、保護者から活動への意見や新しい取組を提案する声が挙がっている。中には、もっと活動に関わりたいたいと考える会員もいて頼もしい限りである。

3年間かけて整えた「できることを続けていこう」という組織の改編は、活動に参加しにくくなった会員でも、「今回は気軽に参加してみよう」、「できることを協力しよう」という安心感につながったと言えよう。学校と保護者が連携して子どもに寄り添い、子どものためにできることを探りつつ、つながり合っていきたい。

学校教育への協力

～保護者及び地域社会による学校支援～

伊豆市立修善寺中学校 教頭 駿 藤 衛

1 はじめに

平成16年町村合併により伊豆市立修善寺中学校となった本校の学校規模は、生徒316名、通常学級9、特別支援学級2、職員41名です。古くから伊豆半島の交通の要地として、また温泉観光地として栄えた修善寺の中心部に位置し、北に富士山、南に天城連山、西に達磨山、眼下に狩野川を望む豊かな自然に恵まれた環境にあります。

本校は4小学校区（修善寺小、修善寺東小、修善寺南小、熊坂小）からなるため、PTA役員は4小学校区から選出し、役職（会長1、副会長4、各委員長4、学年委員長3）は4小学校区ごとの輪番制としています。近年は会員数減少に伴って役員選出が困難なため削減し、現在は合計46名のPTA組織として活動しています。



校門から見た校舎

2 活動のねらい

保護者は学校行事や作業等にかかわりながら、本校が目指す生徒像である「仲間と共によりよい生活を創り出す生徒」、「地域や社会とのつながりの中で故郷を大切にできる生徒」に近づきたいという思いを学校と共有し、連携しながら、日々のPTA活動に取り組んでいます。

3 活動の内容

(1) PTA活動

ア 家庭教育学級（成人教育委員会）

令和元年度、静岡県教育委員会が、県内青少年のネット依存度に関する実態を調査する際、本校は「ネット依存度スクリーニングテスト」の実施を依頼されました。結果、全体的にネット依存傾向が高く、中には専門医療機関の援助を要する生徒もいることが分かりました。

そこで、PTA役員会で対応を協議し、令和2年度から実態調査を継続、情報教育モラル講座を2回実施（生徒向けと保護者向け）しています。この保護者向け講座の準備や運営を成人教育委員会が担当し、家庭教育学級として開催します。アンケートで子供の実態が数値として明確になったこと、講座で具体的な対応策が見つかったことは大きな収穫でした。



情報モラル教育講座（保護者）

イ あいさつ運動（校外指導委員会）

1学期は3年生保護者、2学期は2年生と1年生保護者の順番で、1年に1回参加し、校門付近で朝の20分間行っています。「子供たちの明るい笑顔を見ることができる」、「親として安心」等の声をよく聞きます。さらに、「毎日あいさつ運動をしている校長先生、学年主任の先生、生徒指導担当の先生たちと直接話ができることも、保護者にとって貴重な機会である」と好評です。

ウ 広報誌（広報委員会）

広報誌「花みずき」を年2回発行しています。廃止した学校も多い中、伊豆市は令和7年度に修善寺地区、天城地区、中伊豆地区に新中学校が開校される予定なので、修善寺中学校が閉校となる令和6年度まで継続したいという思いがあります。しかし、曲がり角にあることも確かなので、廃止、ページ数削減、内容刷新、学校ホームページの活用など、今後の方向性について検討中です。

エ 奉仕作業（厚生委員会）

毎年、8月末に実施しています。令和元年度まで参加者は生徒・保護者・職員で、大規模に行ってきました。令和2年度はコロナ禍により中止案も出ましたが、参加は保護者のみ、また平日開催（保護者は仕事優先）としました。ねらいは参加者、作業箇所、作業時間を減らし、密を避けることです。令和3年度は、緊急事態宣言が発出されたため、安全や感染対策の観点から、中止としました。

オ ガレージセール、給食試食会（学年委員会）

(ア) ガレージセールとは、不要になった修善寺中の制服、ジャージ、通学用カバン、セカンドバッグ、体育着、柔道着等のリサイクル活動です。例年、体育祭の日に開催し、保護者に好評です。

(イ) 本校には校舎とは別棟のランチルームがあります。全校生徒が一斉に給食を食べることができる修中自慢の大きな施設です。施設紹介を含め、希望する保護者対象に、毎年1回給食試食会を行ってきました。コロナ禍により令和2年度から中止せざるを得ないことはとても残念です。

(2) キャロットクラブとの連携

キャロットクラブとは、子供たちと直接交流しているボランティアグループです。活動20年の節目となる令和3年度は、伊豆市青少年健全育成大会において、青少年指導者表彰を受けました。メンバーは27名で構成され、子供たちから見ると祖父母の年代の方が多いです。前述したP T A活動（あいさつ運動、奉仕作業等）に参加したり、助けてくださったりします。また、単独でも活動し、草刈り等の環境整備、1年生の野外活動カレー作り手伝い、グリーンカーテン作り、七夕飾り作りなどを行っています。親世代（P T A役員）と祖父母世代（キャロットクラブ）がタッグを組んで子供とかかわることができるのは、本校の特徴であると同時に、強みでもあります。



恒例のグリーンカーテン作り

(3) 修中後援会との連携

本校には、スポーツ・文化活動の振興のため、「修善寺中学校後援会」があります。会員は修善寺地区の各区長ですが、P T A会長が本部役員になり、協力・連携を図っています。本会で集まった寄付金は、部活動での大会参加料や交通費の補助、生徒の教育活動の充実を図る費用として、有効に活用させていただいています。修善寺地区全体で、本校のバックアップをしてくださっています。

4 成果と課題

修善寺地区における子供たちの教育は、学校・家庭（P T A組織）・地域（キャロットクラブ、修中後援会）が、それぞれ適切な役割分担を果たしています。それぞれがねらいを共有し、相互に連携して活動しており、「社会に開かれた教育課程」を実現しています。

最後に令和3年度P T A会長の言葉を紹介します。「新中学校設立に向け、P T A組織の再編について検討していくという大きな課題があります。そんな中ですが、修善寺中学校の目指す生徒像に一步近づく手助けができていると自負しています。P T A会員として保護者が学校に協力できる期間は、子供が中学校に在籍する3年間しかありません。今後も、新型コロナウイルス感染症対策を講じながら、活動規模が縮小しても、今できる範囲内で精一杯の活動をしていきたいと思います。」

子どもが笑顔になるPTA活動

伊東市立池小学校 教頭 萩原 義勝

1 はじめに

本校は、伊東市の南部に位置し、学区に標高580mの大室山があり、その南西部には、30haの水田、池の里が広がっています。校舎からの景色は四季の移ろいが鮮やかで、狸などの小動物を見ることができます。カマキリなどは、卵から孵化までの様子を観察できる自然環境に恵まれた地域に本校があります。

本校は、全校児童74名であり、各学年単学級の小規模な学校です。創立149年目を迎え、創立以来、地域に根ざした学校として地域社会に学校の運営や教育活動に積極的に協力をしていただいています。本校の教育活動を地域とともに支えてくださっているPTA活動について紹介します。



池小学校 校舎全景

2 活動のねらい

本校は、1年間を通して、全校の子どもたちが手作業で稲作活動に取り組んでいます。それらの活動に、PTA活動の一環として多くの保護者に参加していただいています。本校の教育目標「志をもち 豊かに関わり合い しなやかに生きる子」を具現化するために、保護者をはじめ様々な大人と密接に関わることで、子どもたちは物事に真剣に取り組み、豊かな感性をもち、そして仲間とともに協力し合い、活動を創造する逞しい未来人として成長しくことをねらいとしています。

3 活動の内容

(1) 代かき・田植え

本校は、池区の水田の一面を地域の方からお借りしています。毎年5年生が「田んぼリーダー」となり、総合的な学習の時間を通して稲作について学習しています。2年生から6年生が田起こしをした後、5月初旬から中旬に田んぼに水を入れて、今度は全校の子どもたちで代かきと田植えを行います。代かきは、子どもたちが田んぼに入り、足で土をさらに細かく砕いたり、藁や雑草を埋め込んだりします。その後、地域の田んぼ先生の指導のもと、種まきをして育てた苗を田に植えていきます。低学年は、膝下まで泥に埋まり、慣れないぬかるみに足を取られながら作業を進めていきます。また、育てた苗を手で一つずつ植えることで泥だらけになりながら一生懸命に作業を行います。作業後、帰校した子どもたちは、泥だらけになった衣服や体を洗い流します。その泥落としを、保護者を中心に行っていただいています。保護者は、洗い流しながら子どもたちに称賛や励ましの声をかけて、子どもたちの苦勞を労ってくれます。子どもたちは、保護者と関わることで、困難なことに対しても前向きに取り組む力を育むことにつながっています。



体を洗っている様子

(2) 稲刈り

田植えをしてから約5か月が経った秋、全校の子どもたちで稲刈りを行います。学校では、様々な行事を行うとき、たてわりグループで活動することが伝統となっています。稲刈りも、たてわりグループ内のペアで行い、上級生が下

級生に鎌の使い方について教えたり、刈った稲を集めたりしながら作業を進めていきます。刈り取った稲は、保護者に渡して縛ってもらいます。田んぼから学校までは徒歩15分程度かかるため、縛った稲はトラックで運搬してもらっています。稲を束ねる作業を行っていただく傍で、子どもたちが協力しながら稲刈りをしたり、上級生が下級生を支える縦のつながりのよさを見ていただいたりすることを通して、子どもたちの成長を確認し、子どもと保護者の協働作業によって収穫できた達成感をお互いに感じ取ることができます。



稲を束ねている様子

(3) 餅つき

干した稲は、地域の方に協力してもらい機械をお借りして脱穀や粳すりを行います。その後、精米をして餅米となります。餅米は、例年、全校の子どもたちが杵と臼で餅つきを行い、お餅にして学校で食べます。(令和2・3年度は、新型コロナウイルス感染症等の影響により、全校で行う餅つきは実施しませんでした。) 餅つきを行うために、お父さんたちは、かまどの係を行ったり、お母さんたちは、ついた餅を味付けしたりしています。自分たちが育てた餅米を自分たちでつき、一堂に会して食することで、地域の方や保護者の方々に感謝しながらお餅を味わうことの喜びを感じることができます。



餅を作っている様子

4 成果と今後の課題

稲作活動に多くの保護者が参加してくださることで、子どもたちは作業に没頭することができ、充実した活動から多くのことを学びます。また、保護者にサポートしていただくことで、教職員も子どもたちの安全に配慮しながら十分な指導をすることができます。

そして、保護者が、1年間を通して稲作活動に参加し、子どもたちが仲間と力を合わせて生産活動する姿を間近で見ることによって、保護者も子どもたちの成長を見届けながら収穫した喜びを親子で共有することができます。

昔から脈々と受け継がれている稲作活動は、学校、PTA、地域社会が相互に連携・協働することによって、子どもたちの笑顔のみならず保護者や地域、教職員の笑顔を生み出すことにつながっています。

今後、コミュニティ・スクールが導入されることによって、これまでに増して、子どもの成長を支える豊かな教育活動が実践できることが期待されます。学校、PTA、地域社会がさらに連携・協働し、みんなが笑顔となる学校にしていく組織を再構築することがこれからの課題となっていきます。

できるときに、できることを ～ 令和の時代の持続可能な新しいPTAのあり方をもとめて～

三島市立山田小学校 三島市PTA連絡協議会 副会長 寺野下 昌秀

1 はじめに

三島市は静岡県の東部、北は富士山、南には伊豆の温泉郷などがある自然環境に恵まれた伊豆半島の付け根に位置します。本学区は、三島市北東部の昭和・平成にかけて開発された住宅地と、農業地域として長い歴史をもつ地区から構成されます。

本校は、昭和53年に創立された小学校で、児童数435名、学級数 15の学校です。(令和3年度 時点)



2 活動のねらい

近年、地域の特性や家庭環境などの変化から、以下の点においてPTA活動や役員募集の負担が大きな課題となっていました。

・PTA会員の減少

児童数がピーク時の3分の2以下となり、児童在学中のPTA役員が、複数回巡ってくることによる負担の増大。

・共働き社会への推移

共働き世帯の増加により、PTA活動時間に対する負担の増加。

・活動内容の固定化

活動目的が不透明なため、変更したり止める判断ができず、維持するだけの活動と考えられ負担感の増加。

・役員選考会への気の重さ

役員選考時、人が集まらない箇所に対し、規定数を確保することへの圧力から、決める側、決められる側において心理的負担が大きい状況。

これらの課題を見ていくと、個々の課題は他の課題にも影響していることから、個々に解決するだけでは本当の解決にはならないと感じました。そこで、PTA活動の原点に立ち戻ると共に「できるときに、できることを」をモットーに、全体的な活動目的や作業方法の見直しを行い、作業の簡素化や役員選考、体制改定の取り組みを進めることとしました。

3 活動の内容

本活動は、令和元年度に以下のステップで実施しました。

- 4月 PTA総会にて「改定検討活動」の提案。
- 5～8月 PTA活動の理解と作業の把握。
把握した内容の会員報告。
- 9～10月 PTA活動と体制の改定、選考方法の提案作成。
- 11月 会員への説明と臨時PTA総会での規約改定への採決。
- 12月 次期役員募集。
- 1月 新体制における、引継ぎ資料作成。
- 2～3月 新体制への引継ぎ期間。

まず始めに行ったのは、PTA総会で会員の皆さんへ活動の提案とお願いでした。現状把握のためのヒアリングや提案に対する確認と判断のご協力と、次年度の体制や選考方法が変わる可能性についてのご理解をいただきました。

次に、網羅的にPTA活動の把握を実施しました。

現・旧任の担当者から、各部の活動状況や課題についてヒアリングを行いまとめました。合わせて、外部との連携につ

図1 PTA活動の理解と作業の把握(各部)

いても可視化を進めました。(図1、2)

この時、活動内容だけでなく、目的やメリット・デメリット、心情的に感じていることも集めることに努めました。

そして、次の検討ステップ(図3)に沿って、活動の再定義から体制、選考の検討を進めました。

この時、私たちの考えだけではなく、他の良い活動方法や体制や規約を参考にするため、三島市の他の小学校・中学校の情報を活用しました。この情報収集は、三島市PTA連絡協議会のLINE連絡網から呼びかけることで、他学校のPTA会長等と連携をとることができました。

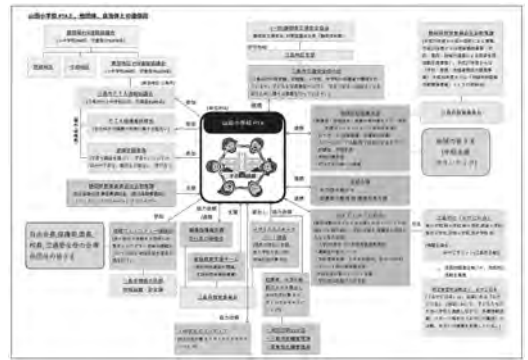


図2 PTA活動の理解と作業の把握 (外部団体)

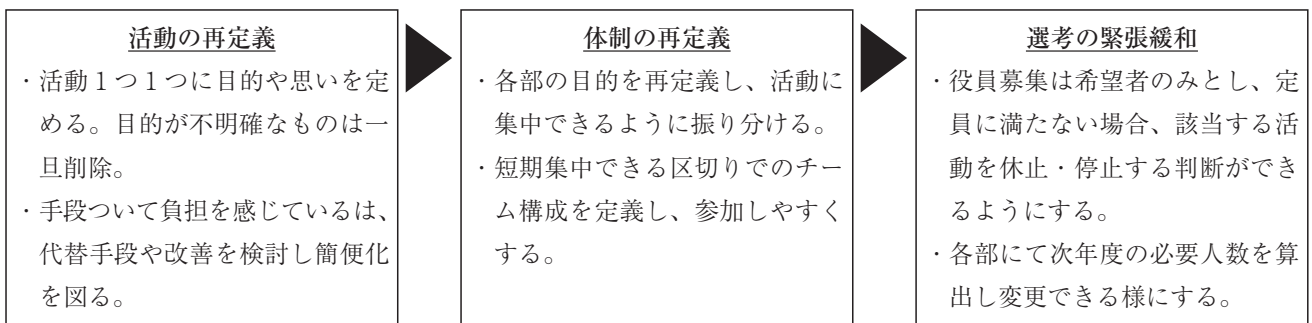


図3 新PTA活動と体制、選考方法の検討ステップ

検討の結果、主に以下の改定に至りました。

- ・学年部のクラス役員や連絡方法、懇談会担当、カーテン清掃の方法を見直すことで、クラス毎の役員が削減できると判断し廃止としました。
- ・会報誌に関して、会員への通知内容の見直し、学校発信ブログの活用や発行作業の効率化から、削減ができる見込みとなり廃部としました。
- ・整備部の学校清掃や事務局主催のイベントに関し、活動の特性から新たにイベント部としてまとめる事としました。そして、イベント毎にチームを作り、その単位で役員を募集することで、活動期間や担当範囲を明確にして参加しやすくしました。
- ・会長、副会長の作業や役目を見直し、各部長を副会長とすることで権限や承認の効率化を図りました。
- ・事務局内の会議や中間資料の削減、作業担当の見直し、オンラインによる情報伝達の改善から事務局の必要性がなくなったことで、事務局を廃止しました。
- ・役員定員を一定ではなく、各部の状況に応じて募集人数の増減ができるようにすることで、状況に合った人数を募ることができるようになりました。また、定員数集まらなくても、該当活動を休止・停止する判断ができるようにすることで、募集に対する心理的負担を低減しました。
- ・部の名称変更とキャッチコピーを作成することで、イメージの一新を図りました。

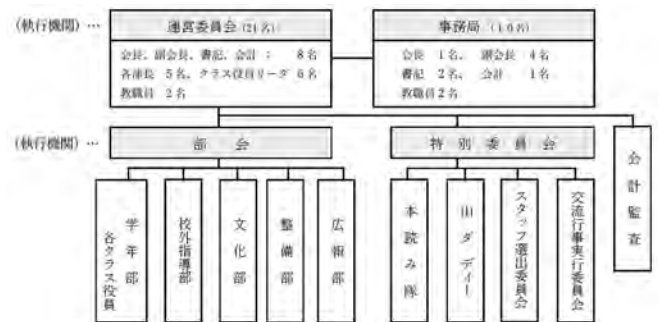


図4 (旧) 執行機関の体制



図4 (旧) 執行機関の体制

・活動の目的や思いを正しく伝えられるよう、引継ぎ資料の充実や、引継ぎ期間を十分確保するよう年間計画を改めました。

以上の改定提案について、会員へ紙面と説明会を通じ告知した後、臨時PTA総会にて採決をし、次年度から施行する運びとなりました。

4 成果と今後の課題

今回の活動では、PTA活動を網羅的に見直し、再構築を進めました。これにより、活動目的の明確化と参加しやすい部やチーム作り、募集に対する心理的負担の軽減と、変更をしやすい環境作りをすることで、PTA活動の持続可能な環境の仕組み作りをしました。

結果として、必要な構成人数は、64名（旧体制）から30名（新体制）となり、約50%の削減となりました。そして、不安のあった役員募集も、令和2年度、3年度実績では、全て希望者のみで定員を満たすことができました。会員の皆さまへは、活動目的や参加範囲の明確化による理解への向上、選考に対する心理的負担が少しは軽減できたのではないかと思います。

また、新たな体制では「やりたい活動を前向きに取り組めて、会議や打ち合わせの出席率が高くなった」、「各部ごとの独立採算制というような位置づけから、各部内をとりまとめやすくなった」など良いコメントいただく一方、「独立性が高くなったことから、活動内容の詳細をすべて把握することが難しいかも」といった懸念もあり、個と全体のバランスについては今後の課題かと思われます。

最後に、今回PTA活動の原点と目的から、硬直化していた体制の改定を進めました。しかし、今回だけではなく、児童の環境が大きく変わり続けている今、それを支えるPTAも新しいあり方を求められています。これまでの活動に感謝しつつ、より適した形に移行する柔軟なマインドを醸成していくことが、ますます重要になると思います。

これからも皆さまと共に、より良いPTA活動をつなげていきたいと思えます。

コロナ禍だからこそ横のつながりを

清水町立清水中学校 P T A 会長 村 田 貴 治

1 はじめに

清水町立清水中学校は、駿東郡清水町の中心部よりやや南方に位置する中学校です。昭和22年に創立し、令和3年度は生徒数609名、職員51名の大規模校で、近隣の3つの小学校の卒業生が入学する中学校です。本校の300m北西を流れる柿田川は、富士山の雪解け水が湧き出る美しい河川で、その湧水量は東洋一ともいわれ、国指定の天然記念物や全国名水百選にも選ばれるなど、本校生徒にとって胸を張れる地域の名物となっています。南駿地区P T A連絡協議会（南駿P連）は、そんな清水町と隣接する長泉町の2町計10校で構成されており、今年度は本校が会長校を務めています。



2 活動のねらい

南駿地区P連の活動は、一昨年から続くコロナ禍のため、令和2年度には協議会の開催自体を一切自粛していました。毎年継続してきた教育講演会も中止とし、各校のP T A会長、家庭教育委員が集まる理事会も、引継会の実施となりました。感染症対策のため仕方がないことではありましたが、地区P T A同士の横のつながりは細微なものにならざるを得ない状況でした。

そのため今年度当初、私が本校P T A会長および南駿地区P連会長を拝任するにあたっては、他中学校の状況を知りたいと強く思いました。ところが、清水町内には中学校が他に1校しかありません。また、長泉町内も小中学校の数は同じ。きっと、他校のP T A役員も同じ思いをされるのではないかと考え、それでは今年度の南駿地区P連は、各校の保護者代表がP T A活動に限らずどのような視点で学校を捉えているか、どのような取組を行っているのか等、できる限り顔を合わせて情報交換だけでも継続していくことを目標とすることにしました。

3 活動の内容

コロナ禍で先が見通せない中、今年度も一大行事である南駿地区教育講演会は中止とせざるを得ませんでした。一方で目標とした協議会の対面開催だけは、延期や縮小をしながらも、どうにか例年通りの回数を開催してきました。協議会において各校P T A会長からいただいた意見・取組を下記にまとめました。取組状況や意見、反省等、ウィズ・アフターコロナにおける活動の参考になるのではないのでしょうか。

【P T A主催行事について】

- 家庭教育学級は今年度再開した。ただ募集人数を少なくした。(小学校)
- 親子ふれあい活動は今年度もできなかった。しかし、P T A活動の肝であるため、次年度の計画には残していく。(小学校)
- 奉仕作業の規模を縮小し、P T A専門部で行った。人数が少なかったが、ポイントを決めて集中してきれいに行うことができた。(中学校)
- 宿泊を伴うP T A行事があったが、これを日帰り活動に変え、内容は防災教育に絞った。(小学校)
- 町のP T A球技大会は中止にした。しかし、次年度の計画には残していきたい。(小中学校)
- ナイトスクール(夜の学校内を親子で歩く、肝試しの要素が強いイベント)は中止にした。(小学校)

【学校行事への協力】

- 合唱コンクールで合唱する学級の保護者のみ、入れ替え制で参観できるようにした。P T A役員は保護者の誘導を担当しスムーズな運営ができた。(小中学校)
- 学校行事の実施の是非に関し、決定するのは学校であるが、保護者の立場としての意見をP T Aの会合で率直に伝えた。賛否両方の意見が出たことが学校にとって実施判断のための良い材料になったようである。(中学校)
- 修学旅行実施に向け、P T A学校運営協議員とも話し合い、安全に実施するための意見等をまとめ学校に伝えた。結果、無事修学旅行に行くことができてほっとしている。(小学校)
- 体育祭を、P T Aと教頭で、web会議ツールを用いて生中継した。3人に1人の保護者が参観し好評だった。一方で画像の粗さやカメラワークに関してのクレームが多かったのは残念だった。(中学校)
- 体育祭は無観客で行った。オンラインで流す意見もあったが、肖像権を考慮して、当日撮った映像をタブレットで見られるようにした。当日の撮影にはドローンも使用した。(中学校)

【新年度の役員決め】

- このコロナ禍をきっかけにして、役員人数を検討し、少人数で小回りの利くP T A本部を構成した。(中学校)
- これまでの半分の人数のP T A役員数にした。(小学校)
- 規約を変更し、役員数を減らし、仕事を簡略化した。(小学校)
- やめてしまうのは簡単である。組織をシンプルにするが役員数は変えないことに決めた。(中学校)

【新年度へ向けての課題】

- 2年間にわたって活動が激減した。新年度へ向けて引継をどのようにしていくかが喫緊の課題である。(小学校)
- 講演会等はオンラインでやっていきたい。親子で見てコメントをいただくという形等をとってみたいではないか。(小学校)
- 父親にどうP T A活動に協力してもらおうか試行錯誤している。父親サークルを始めたり、L I N E等のメッセージングアプリを用いたりして、父親に力仕事等で学校を支援するような仕組み作りを始めた。(小学校)
- コロナ禍においては、Z O O M等のweb会議ツールを用いて、P T Aの各部会を行っていきたい。実際に今年度やってみたが、参加人数が多くなるほど会議の体を成さなくなり、リモートの限界もわかった。

【P T A会費の有効利用】

- ワックスがけを衛生的に行えるように、モップを購入した。
- どれだけあっても困らないアルコール消毒液を地区P T Aで購入したい。

4 成果と今後の課題

近隣校P T Aの状況を知ることができ、今後の活動の参考になったのはもちろんですが、情報交換できたこと自体に多くの賛同の声を各校P T A会長よりいただきました。また、P T A役員としてのモチベーションの確保や不安の解消にも繋がったと思います。

今後もコロナ禍はまだまだ予断を許さない情勢が続くものと思いますが、こんな時だからこそ、生活圏の重なる近隣校P T A同士で情報交換ができる地区P連の意義は大きいと感じます。これからも本協議会を通じて、町を超えた横の交流が進み、南駿地区全体で同じ感覚を共有して子供たちを見守ることに繋がればと思います。

コロナ禍でのPTA活動「維持・継続するもの」と「変えていいもの」

裾野市立深良小学校 PTA会長 薄井康夫

1. はじめに

裾野市は静岡県の東、富士山のふもとに広がり、東には箱根外輪山、西には愛鷹連山と豊かな自然に囲まれた工業のまちです。昨今では、トヨタ自動車(株)が技術実証のため「コネクテッド・シティ」であるWoven Cityの整備を進めるなど先端技術の研究都市として発展が期待されています。

その裾野市にある裾野市立深良小学校は、1889年11月に創立され、裾野市では3番目に古い132年の歴史のある小学校です。また、近くには2014年に世界かんがい施設遺産として登録された深良用水があり、芦ノ湖からの水が裾野市を潤しています。

2. 活動のねらい

PTAの活動は、例年通り2月にある新旧役員の引継ぎから始まりましたが、皆様が感じていたように「予定した行事をきちんと行うことが出来るか」という不安を抱えながらのスタートでした。コロナ禍とは言え、教育機会の確実な確保と細部まで配慮された安心・安全の両立を求められる学校環境を考えれば、「実施」「規模を縮小した実施」「延期・中止」と常に判断を迫られる難しい舵取りであったことは想像に難くありません。しかし、昨年迄の反省や先生方のご尽力、GIGAスクール構想・タブレット配布によるオンラインの広まりから「維持・継続するもの」と「変えていいもの」については、幸か不幸かはっきりと認識出来たように思います。

3. 活動の内容

これまで以上に再認識されるようになったのは「この行事の目的は何か、その為に必要なことは何か」という「目的意識」であると感じています。これは行事の大小ではなくすべての行事において、検討されるようになったと感じています。残念ながら、コロナの感染拡大防止のために、中止にせざるを得ない行事はありましたが、規模の縮小、人数制限によっても達成感や満足感を得られる行事があったと思います。その代表的な例として「運動会」が挙げられます。勿論、これまでのスタイルが一番だというお考えも当然あるでしょう。しかし、冷静に考えてみると、いろいろな制約があった中でも、子供達は純粋に一所懸命で、午前中という開催時間の中でも輝いていたと思います。これは、先生方の努力の賜物であり、感謝しかございません。

翻ってPTAの活動としてどうかというと、学校の意向を尊重して、対応するので精一杯であったというのが正直なところです。

本会として活動してきたのは、以下になります。



運動会3, 4年生ソーラン節

項目	実施計画	実施状況
深良用水祭り	-	中止(2年連続)
入学式	4月7日	実施 新入生、保護者のみ
PTA総会	4月20日	中止 書面決議
PTA理事会	第1回 4月14日 第2回 8月31日 第3回 10月13日	実施(全体会議) 実施(三役のみ) 実施(全体会議)

授業参観・懇談会	5月14日 1, 3, 5年 5月28日 2, 4, 6年 ※以降の開催も同様	実施 地区に分けて参観時間を指定
交通安全リーダーと語る会	5月28日	実施 体育館にて間隔を十分取って実施
深良用水隧道見学	8月初旬	中止
親子奉仕作業	9月23日	中止
運動会	10月9日	実施 午前中のみ規模を縮小
家庭教育学級	6月17日 チョークアート講座 12月6日 クリスマスリース講座	実施 体育館にて間隔を十分取って実施
交通安全指導、安全パトロール	学期始まりの1週間、夏休み中	実施 実施
深小まつり	11月13日	実施 保護者参観無し
コミセンまつり (PTAバザー)	11月14日	中止
もちつき大会 (感謝の会)	12月3日	実施 保護者参観無し

PTA主催及び参画しての活動で中止になったのは、前述の通りです。また、規模を縮小して実施や時間制限を設けて実施したものがほとんどになります。

会の中止という点では、PTA総会を书面決議で終わらせてしまったことは、不本意であったと感じています。確かに全学年の保護者参加で行う会議を各家庭での端末、携帯をベースにした上で、実施するというのは相当な準備を要し、学校側の負担も大きいと想像できます。しかし、一般的にはオンラインセミナー等は日常的に開催される状況であるため、やってやれないことは無かったかもしれません。当時Chromebookは生徒に配付されていませんでしたが、現状では配付されており、開催のハードルはかなり下がっていると考えます。目的意識の点から言えば、通例的にセレモニー的な開催になってしまうPTA総会もビデオ、写真等を活用し、より意義を持たせた活動へ昇華できるのではないのでしょうか。従来通りの開催方法をアップグレードすることで、よりコンテンツが充実し積極的に参加したくなるような総会が実現する可能性が高まってきていると感じています。



家庭教育学級 チョークアート講座

同様に、緊急事態宣言のため、PTA会長、副会長の3役と学校側で協議した第2回PTA理事会もオンラインでの開催検討が必要であったと心残りに思っています。運動会前の奉仕作業や当日の準備の整合等を話し合う会でしたので、学年部、広報部、校外安全部の各理事に参加いただくべきでした。当日は学校側の多大なるご配慮もあり無事運動会のサポートが出来たことは結果としては良かったのですが、進め方としては改善の余地がありました。

本年の裾野市PTA連合会では、Zoomを用いて全てオンラインで実施していることを鑑みましても、会の重要度に応じて、オンライン開催を積極的に取り入れることで、従来通りの確実な伝達と連携が実現するだけでなく、多忙であっても従来以上に容易に参加できるというメリットも発生しますので、今後は是非これを実現させていくことが出来ればと思います。

4. 成果と今後の課題

以上纏めますと、「目的を明確にした上で、開催方法を吟味し、実践すること」が大事であると考えます。今後もコロナの感染状況により、行動が制限される可能性はありますが、安易に延期・中止を検討するのではなく、よく検討して学校側、PTAの皆様と協力して進めて参ります。

学校・家庭・地域と連携したPTA活動

沼津市立大岡小学校 教頭 北尾 揚子

1. はじめに

本校は、市の中心部に隣接し、国道414号、246号、JR東海道線・御殿場線等の主要幹線が、校区を横断しています。また、芝浦、矢崎の大工場をはじめ中小企業も多く、かつての農耕地は住宅地に変わっています。そのため、交通量は極めて多く交通事故が憂慮されますが、地域のスクールガードの方々に毎日見守られ、子供たちは安心して登下校をしています。

また、地域の核となる大岡地区センターが本校に隣接しており、「いきいきと子供が育つ明るい大岡」をスローガンに、地域では活発なコミュニティ活動が推進されています。

昨年度からは、学校運営協議会が始まり、地域の力を得ながら「地域と共にある学校づくり」に向けて取り組む中、PTA組織としてどのような役割を担っていくのが、今後の大きな課題となっています。



スクールガードによる見守り

2 活動のねらい

「広げよう元気で楽しいPTAの輪！」をスローガンに以下の5つの大岡小PTAの約束を掲げ、子供たちの笑顔のために活動を行っています。

昨年に引き続きコロナ禍で様々な活動が制約される中、単に中止とするのではなく、今できることは何かを考え、工夫した活動を行ってきました。また、これまでの活動内容を精選することにより、運営組織の再編成を行いました。

3 活動の内容

これまでの大岡小PTA組織は、5つの部で構成され、以下のような活動を行ってきました。(コロナ禍で中止の活動も含む)

- (1) 常任理事 ・PTA事業の企画、運営 ・大岡地区夏祭り出店協力 ・奉仕作業 ・ふれあい祭り ・どんど焼き
- (2) 学年部 ・ベルマーク収集、整理 ・会計監査
- (3) 研修部 ・家庭教育学級の企画、運営 ・大岡コミ教育文化部行事の協力
- (4) 広報部 ・広報誌の編集、発行
- (5) 校区会 ・各子供会活動への支援、指導 ・古紙回収 ・沼子連活動への参加、協力

このうち学年部については、学校徴収金の口座引き落としにより、集金補助業務がなくなったこと、児童によるベルマーク収集活動がなくなったこと等により、その存在意義が薄れ、令和4年から廃止することとなりました。(令和3年11月臨時PTA総会にて承認)

研修部の家庭教育学級は、昨年度全ての活動が中止となってしまったため、今年度は「各家庭でできる親子体験を研修部より提案する」という取り組みを行いました。第1回の家庭教育学級は「塩麹・醤油麹の仕込み体験をしてみよう！」として、体験キットによる各家庭でのふれあい体験を提案しました。キットには材料の他、容器や手順書、参考レシピが付属していて、各家庭で手軽に体験ができ参加者からも多くの喜びの声が寄せられました。



醤油麹キット

また、学校運営協議会モデル地域として、PTAも学校、地域と連携した活動を行っています。その中からいくつか紹介します。

〈学校行事〉

運動会では、熱中症対策で必要となったテントを地域から借りる手配をし、運搬、設置、片付けまで行いました。また、受付では来校者の検温や誘導等も行いました。



運動会受付

〈校区会〉

定期的なPTA理事会に単位子供会会長も参加することにより、球技大会や古紙回収、どんど焼きなど、子供会活動が充実して行われています。

〈地域〉

PTAの活動として、地域行事への参加を呼びかけるだけでなく、例年地区開催の祭りでは積極的な参加を行っています。地域もPTA活動に協力的で、年2回の古紙回収は圧巻の量となっています。どんど焼きは、昨年度に引き続き子供たちの参加はとりやめましたが、大岡地区の災い払いのため、お飾りを集め担当理事部員のみで実施しました。



古紙回収



どんど焼き

4 成果と今後の課題

今年度は、活動中止を余儀なくされた昨年度を踏まえ、「どうすればいいのか」「今できることは何か」を常に試行錯誤しながら活動を行ってきました。また、昨今の学校運営の変化に伴い、PTA組織の簡素化と活動内容の変更も、臨時総会（Web）を開催して行いました。

常任理事の任期は2年ですが、本年度活動の中心となるべく2年目理事がほとんどの活動が未経験な状態となり、運営に不安が残りました。そのため、複数名の理事経験者が立候補し再度理事に加わり、経験を元にアドバイスをしています。思いやり・助け合いの精神を、親から子へ楽しみながら伝えることができている素敵な地区です。学校運営協議会では、学校と地域とつながりの中でのPTA活動の役割について、改めて問われています。地域の特性を大切にしつつ、保護者も地域の一員として、持続可能なPTA活動や組織のあり方を今後も模索していきたいと考えます。

家庭教育学級の取組

御殿場市立西中学校 P T A 会長 皆 川 達 哉
家庭教育学級長 常 喜 由 夏 利

1. はじめに

御殿場市立西中学校は、生徒数299名、学級数12学級の中規模校です。富士山麓のなだらかな傾斜地の高原に位置し、学校の周囲は田園風景の中に住宅地が散在しています。近年は、住宅の増加により宅地化が進んでいるものの、少子化の影響で生徒数は微減しています。学校環境としては、樺山の森など、広い校地内には樹木があり、春の新緑、秋の紅葉、冬の雪とのコントラスト等、四季折々の変化を敏感に感じとることができます。

2年前には地域の協力により、真新しい校舎が完成しました。放送設備や大型ディスプレイ、さらには全館エアコンが設置され、最新の設備で非常に恵まれた環境の中、生徒たちは学習しています。部活動では、マーチングバンドが4年連続で全国大会に出場しました。

P T A 活動は、新型コロナウイルス感染拡大の防止のため、今年度も活動が制限されました。そのため、主な活動は登校時のあいさつ運動や長期休業中の校区パトロールなどに限定されました。そこで、今回は御殿場市の家庭教育学級運営委員研修会や本校の家庭教育学級の活動について紹介いたします。



2 活動のねらい

家庭教育学級は子育てに関わる大人たちの学びの場として運営されています。仲間とともに子供の成長や将来について考え、子育ての悩みや親の関わり方などを話し合い、情報を共有しながら学んでいます。

3 活動内容

(1) 健康教室

日頃の生活を見直す、とてもためになるお話を聞きました。特に印象に残っている点を以下に挙げてみます。

- ・脂っこいものをよく食べる人には調理法や味付けを変えるということ。
- ・定期的に運動をおこなっていない人は早歩きや隙間時間の筋力トレーニングでエネルギーを消費しやすくなる体になること。
- ・お酒をたくさん飲む人には肝臓を休ませるために週に2日の休肝日を設けること。

また、静岡県東部地域には、メタボリックシンドローム、糖尿病、習慣的喫煙者、これらの該当者が男女ともに多いことなどを知りました。

(2) 親子のふれあい力アップ講座

親子のコミュニケーションやスキンシップの大切さについてお話を伺いました。子供と触れ合うことは、脳が活発になり、安心感が生まれたりするそうです。

触れ合う時間を多くとることで、子供が、大きくなってからも優しい心が持てるようになる聞き、日頃から子供たちともっとスキン



シップをとっていきたいと思いました。そうすることで、日ごろのイライラやストレスも軽減されるのではないかと思います。

(3) 親子で本を楽しもう

図書館ボランティアの会の方々がまず、絵本を読み聞かせてくださいました。読むテンポがとてもゆっくりで、とても聞きやすく、物語が頭の中に浮かんできました。自分自身も子供が小さいころはよく読み聞かせをしていましたが、気持ちを込めて読むことの大切さを教わった気がします。

「おこだてませんように」の読み聞かせは感動して思わず涙が出ました。まだまだ自分の知らない素晴らしい本があると思うと、もっと読みたいという気持ちになります。また、子供にもぜひ読んでほしいと思います。

私も子供たちもスマホやゲームをついつい手に取ってしまいがちですが、子供とともに本を読む時間を大切にしたいと思いました。



(4) 夢創造事業キャリア教育講演会

家庭教育学級の講座を兼ねて実施しました。御殿場市出身のトータルテンボスのお二人に御来校いただき、「これまでの芸能人生を振り返って～中学生に期待すること～」という演題で御講演していただきました。自分たちの学生時代の話を変えながらの楽しいお話に、会場内は終始笑いの渦に包まれていました。



4 成果と今後の課題

家庭教育学級は子供の成長のため家庭教育力を高めることが目的ですが、あまり堅苦しく考えず、気軽に参加していただけるほうがいいと思っています。活動中に世間話をする事で学級生、親同士のコミュニケーションがとれます。

親同士の輪が広がれば、いざというときに力を合わせることもできます。誰もが気軽に参加できる家庭教育学級になることを願っています。

子供の笑顔の為に家庭・学校・地域ができるPTA活動

富士市立須津中学校 PTA会長 小林 絵美

1 はじめに

須津中学校は、世界文化遺産・富士山の麓、愛鷹山を北に、南には浮島沼から駿河湾が広がり、県下でも有数の古墳の史跡が残る地域です。歴史的に古(いにしえ)の時代から文化を築いてきた地区であり、現在でも、浮島・須津地区は、豊かな自然に恵まれ、土地柄、校区の方々の地区への愛着が強い地区です。急激に社会が変化していく中でも、全世代が地区に誇りを持ち、校訓の中にある「自主」「責任」「明朗」を体現している方々も多く、校章にデザインされた「梅檀」にみられる気高さも、本地区の誇りとして大切にされてきました。地域のまとまりが強く、学校教育に対する期待と関心も高く、保護者の理解もあり、一致団結して協力し合っています。2つの小学校区(東小・須津小)からなり、生徒数369名。昭和43年から教育活動の一環として「小さな親切運動」が続けられており、生徒の多くの保護者も中学時代に経験し、親子2代の伝統的な活動となっています。また、地域内に複数の社会福祉施設が開設されており、地域を挙げて福祉(ボランティア)活動に意欲を示しています。



2 活動のねらい

今年度も、新型コロナウイルスの影響が考えられた為、2月の活動内容を決める際、内容変更することで実施可能にならないかと考えました。

また、年々生徒数の減少が見られています。持続可能なPTAを目指し、役員をすることが負担になってしまわないように、PTA規約の改正を行いました。

3 活動の内容

須津中学校PTAの役員は、会長1名、副会長4名(前年の部長)、生活指導部・環境整備部・体育保健部・成人教育部・家庭教育委員の部長5名から成り立っています。

○生活指導部

- ・情報安全講座
- ・「運動会の校内パトロール」を「体育的行事の受付・駐車場の交通整理」に変更
- ・駆け込み110番の確認。小学校と協力し、子供たちの通学路で『駆け込み110番』をやって下さるお家を探し、看板を付けさせていただく。

○環境整備部

- ・古紙回収…土日は部員にて、平日は学校の事務員さんにてBOX開閉実施

○体育保健部

- ・「運動会の綱引きに参加」を「体育的行事の見守り、見廻り」に変更
コロナ禍でも実施できる内容に変更しましたが、体育的行事も学年ごとの実施になったため、見守り・見廻りは中止
- ・「PTA球技大会」を「体育保健講座」に変更



古紙回収ステーション

体育保健講座は、コロナで人が集まることができない状況だったため中止にし、学校で行う講座に部員が参加する形にしました。

○成人教育部

- ・部会は4回予定していましたが、1回のみ実施
- ・PTA新聞は2回発行

○家庭教育委員会

- ・コサージュ材料購入

9月初旬の奉仕作業は感染対策をして行う予定でしたが、8月に緊急事態宣言が発令され、夏季休暇の延長・分散登校が始まったため中止になりました。

9月下旬の運動会は、コロナの為、短時間にて行う体育的行事に変更されていましたが、緊急事態宣言が出されたため、日にちを延期、的場祭「体育の部」として、各学年ごとで行うことになりました。その為、生活指導部と体育保健部の事業内容は中止となりました。

年々生徒数が減っている中、役員的人数が以前と同じままでは、役員を選出に大変な思いをされる地区が増えてくることが予想されるため、PTA規約の改正を行いました。各部長さんと、事業内容を削減ではなく内容の見直しを行うことで、少ない部員数でも無理のない活動が可能か話し合いました。来年度、人数の減る地区は、実際に役員的人数を減らして活動してみることになりました。



以前の奉仕作業の様子



的場祭「体育の部」の様子

4 成果と課題

今年は、少しでも活動ができるようにと内容の変更や感染予防対策など検討しましたが、やはり中止にせざるおえない状況になってしまいました。活動一つ一つを検討する際に、学校・役員・会員が子供たちの為にどうすることが一番良い形になるか、と考えるきっかけがたくさんあったと思います。

生徒数は減少していますが、子供たちの笑顔の為に、活動を通して、会員同士や子供たちと保護者がつながることができ、教育活動に参加する形で学校ともつながることができれば、家庭・学校・地域がより密につながり、無理のない持続可能なPTAが目指せるのではないかと思います。

コロナ禍でのPTA活動について

富士宮市立大富士小学校 PTA会長 菅沼田 洋光

1. はじめに

富士宮市立大富士小学校は、開校70年目となる歴史ある小学校です。富士宮市街の北部近郊に位置しており、この地はかつて水利が悪く、新田開発も大変な土地でしたが、水道が引かれてからは住宅地が増え、人口も増加しました。本校も30学級、生徒数910名（令和2年度）在籍しており、市内2番目のマンモス校になります。



平成7年には中学校も開校され、現在は一小一中の学区となっており、「大富士小中の連携・接続」を強く意識した学校経営がなされています。

現在のコロナ禍において、全生徒にタブレットの貸与、そしてオンライン会議システムの「Meet」を使用する練習を行い、オンライン授業に対する準備も進めております。

2. 活動の狙い

昨年は1月より広がりを見せていたコロナ禍により、三密を避ける・ソーシャルディスタンスを取る等の方針から、ほぼPTAとしての活動が行えずにいましたが、今年は、昨年の反省点を生かしながらPTAとしての活動を行い、来年以降のアフターコロナへの橋渡しをと考えておりましたが、静岡県県の「まん延防止等重点措置」から「緊急事態宣言」への移行により、再び活動の見直しを迫られました。

3. 活動の内容

運動会は昨年も内容の見直しや、2学年ごとでの開催等、先生方の工夫のお陰で開催しましたが、今年も6月に無事開催することが出来ました。保護者の参観も2名まで可とし、PTAとしては広報部が少しでも多くの写真を撮影し、広報誌に載せることで、より多くの親や親族の方に子供の勇姿を見せてあげたいと言うことで奮闘してくれました。

「交通安全見守り部」の朝の旗振りも、例年と変わらず活動を継続し、子供たちの安全のために頑張ってくださいっております。

一昨年は台風のため、昨年はコロナのために中止になってはいましたが、子供たちに昔の遊びを通じて体を動かす喜びを体験して欲しいとして毎年行っていた「大富士小祭り」というイベントがあるのですが、こちらも「保健体育部」が中心となり準備を進めておりましたが、今年も無念の開催中止の運びとなりました。

それ以外の大富士中学校との合同の「親子リサイクル活動」は春の部は中止となりましたが、秋の部は、コロナが小康状態だったこともあり、無事に開催し、小中のPTA役員の方々と力を合わせてリサイクル活動を行うことが出来ました。

そして、子供たちの読書のサポートの為にしている、図書館での司書さんのお手伝いをする「図書ボランティア」は、8・9月は残念ながら中止になりましたが、それ以外の月はボランティアさんの尽力もあり、無事活動できました。活

動を行った時には、換気や消毒についてマニュアル化を行い、徹底した衛生管理のお陰で、何も問題が起きませんでした。
12月には人数制限等がありましたが「砂防事務所の見学」を研修活動として行い、これも好評のうちに終わられました。

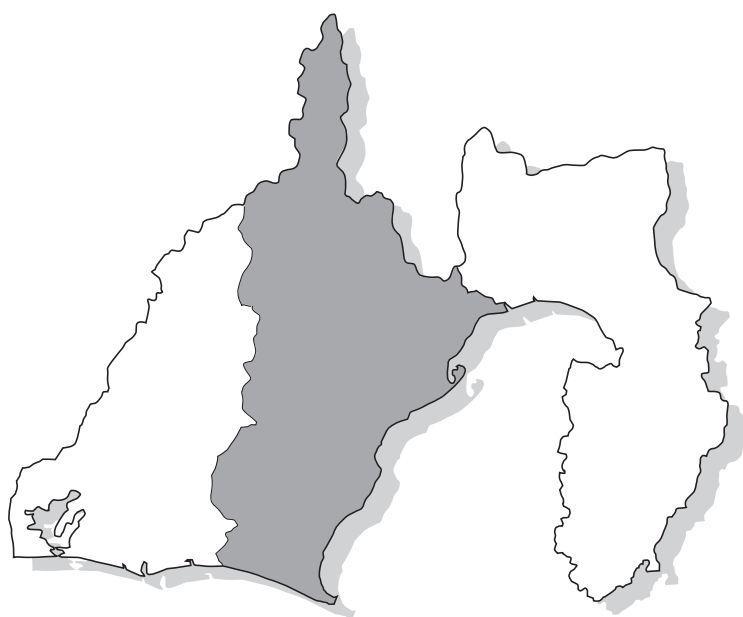
4. 成果と今後の課題

どうしてもコロナに振り回されてしまい、思うような活動が出来ず、その中でも子供たちの為に尽力くださっている先生方、PTA役員の方、ボランティア活動をしてくださる親御さんたちには大変頭の下がる思いで一杯です。

コロナ対策としては、すでにコロナ前から使用しておりましたが、「LINE」で連絡を取り合い、場合によっては話し合いの場として利用し、会議の時には多くの方が使用経験のある「zoom」の導入も検討はしましたが、制限解除のためには有料化が必須のため、子供達と同じ物で無料でも特に制限の無い「meet」を本格運用しようと毎月の運営協議会では試験的に使いながら使用上の問題点を洗い出しているところで、このような方法で三密・ソーシャルディスタンス対策を進めております。

今後としましては、すでにコロナ禍での活動が2年を迎え、それ以前の活動を知らない方がPTA活動に参加してくれることも多くなっている現状、コロナ前に行っていたPTA活動についてや、このコロナ禍で試行錯誤したこうした活動の経験の継承が大事だと考えております。

役員の方にはなるべく口頭に頼らず文章にて次年度の方への引き継ぎを行うようお願いし、デジタルの保存メディアの購入を推進し、来年度の活動の参考にさせていただくように準備を行い、やはりコロナ以前とは今後も活動内容も変わっていく部分もありますので、来年度はコロナ禍でも実行可能な物を新たに考え、たとえコロナが収まっても、この2年で皆様の生活様式もだいぶ変わり、コロナ騒動の前と全く同じ様にはならないと考えております。そのことを踏まえて、これからの子供達のために活動できることを考え実践していくつもりです。



〈実践事例提供：中部地区〉

- 静岡市立清水第四中学校
- 焼津市立焼津東小学校
- 藤枝市立葉梨小学校
- 島田市立島田第三小学校

地域との共生 学校とPTA

～ 未来を見据えた子どもたち ～

静岡市立清水第四中学校 PTA顧問 畠山英明

1 はじめに

清水第四中学校は、昭和22年に創立されました。

昭和24年に制定された校章には、清水港を表す空色、外洋の怒濤にも動ずることなく常に思慮分別を失わぬ理知を表す青色、清廉潔白な心や限りない学問の憧れをひたむきに持つ純白な心を四つのペン先で表しています。

学区は静岡市清水区の南西部に位置し、東は折戸湾・巴川口に面し、南は折戸・三保地区に接する駒越から増・蛇塚と長い沿岸線が続いています。西は日本平山麓に面し、港南、迎山、宮加三、妙音寺、南矢部地区を構成しています。

このような学区に不二見小学校と駒越小学校の2校を抱え、現在生徒数356名の清水地区屈指の広範囲の学区となっています。

学区を取り巻く環境は、国宝の久能寺経を有する名高い鉄舟寺や天然記念物の大蘇鉄があり、文人高山樗牛の菩提寺の龍華寺があります。そして新日本百景の一つになった日本平があり、清水エスパルスのホームグラウンドでもあります。まさに、「動」と「静」の文化が交錯する変化のある環境といえるでしょう。

また校歌は著名な作詞家若杉雄三郎さんと作曲家中山晋平さんのコラボレーションで創り出された由緒ある歌であり、このことから四中創立当時より、地域の方々の本校にかける思いがいかに大きかったかを感じ取ることができます。

地域の方達は、学校と繋がりながら地域全体で交通安全に取り組もうという意識が高く、子どもたちの安全をいつも温かく見守ってくださっている、とてもありがたい存在です。



2 活動のねらい

清水第四中学校PTAは2つの小学校が集まる広い学区の中、地域の方々や各小学校PTAと共に子どもたちの安心安全を見守っています。

中学校のPTA役員を仰せつかり、子供たちの安心安全を見守っていくのは当たり前ですが、日頃から頑張っている生徒たちに何かを還元したいと思いました。そこで導き出したものが『中学生ボランティア』です。

中学生ボランティアと聞いてピンくる人もいれば、何それ？と思う人もいるかもしれませんが、私が描く中学生ボランティアは「地域を取り巻き自分の育った町で活躍してもらう」ことです。

そして私たちPTAはその活躍できる場を提供していくことができるのではないかと考えました。

3 活動内容

令和4年4月から本格的に導入される小中一貫教育に伴い、PTAとしても中学校と小学校の垣根をなくしていきたいと考え、作業に取り掛かりました。

はじめに学区にある2つの小学校に中学生ボランティアの存在を理解してもらい、各小学校のPTA活動に中学生ボランティアを受け入れていただくよう依頼しました。

(1) 小学校でのPTA奉仕作業

小学校において小学生やその保護者、先生方と一緒に今まで自分たちが通っていた小学校へ恩返しの意味も込めて奉仕（清掃等）活動に参加しました。

令和元年度 駒越小学校PTAの奉仕活動 延べ65名参加

不二見小学校PTAの清掃活動 34名参加

令和2年度の活動はありませんでしたが、今年度は、駒越小学校PTAで奉仕活動が行なわれ、49名の中学生が小

学校で作業をさせていただきました。

小学生は、大きな中学生のお兄さんお姉さんが自分たちの学校をきれいにしてくれることでより身近な存在に感じ、中学生は自分たちが上の学年であることを自覚し、意欲をもって作業できたのではないのでしょうか。

(2) 地域貢献

学校区では不二見地区、駒越地区と2つの地区でさまざまなイベントや行事が盛大に行われます。そこで自治会の方にも中学生ボランティアを受け入れていただくよう依頼し、不二見まつりや駒越まつりでは出店ブースにおける接客や品出し販売補助等を行いました。

令和元年度

駒越まつり 12名参加

不二見まつり 4名参加

今年度は、不二見まつりが開催され、7名の中学生がボランティアとして活動しました。

また昨年度は地区の防犯協会に依頼し、道路に設置してあるカーブミラー清掃活動にも5名の中学生が参加させていただきました。

そして自治会主催で行なわれている駒越地区の運動会にも15名が参加し、審判やタイム計測等裏方として色々なお仕事をさせていただきました。



小学校 PTA 出店ブースにて



小さな子どもとのふれあひも



カーブミラー清掃

4 成果と今後の課題

本年度も昨年度同様にコロナ禍が終息することなく地区のさまざまな行事やイベントが中止になり、中学生ボランティアの活動できる場も激減しています。それでもコロナ禍が緩和した12月には各2つの小学校PTAから中学生ボランティアの依頼をいただきました。地域の方々や小学校PTAに中学生ボランティアの存在が認識されてきていることをとても嬉しく思います。

中学生が学校以外でも活躍できる場を、と考えPTAとして企画したわけですが、私達自身が地域の方との繋がりを深めることもできました。

ある地域の方からは「自分たちの時代にも中学生ボランティアがあればもっと楽しい中学校生活が送れた」という言葉も頂きました。まだまだコロナ禍は終息しませんがここで立ち止まるのではなくこのコロナ禍の時代だからこそできることを考え、PTAとして生徒たちの安心安全を守りながら、これからも地域貢献に携われる『中学生ボランティア』、地域で活躍できる『中学生ボランティア』をアピールしつつ企画運営をしていきたいと思ひます。

そしていつしか・・・この中から地域を担う仲間が育ってくれることを願っています。



子供たちの笑顔のために

～ コロナ禍でのPTA活動～

焼津市立焼津東小学校 PTA会長 吉田 克 則

1 はじめに

焼津東小学校は焼津駅や商店街、市役所に近い場所に位置し、創立133年目の伝統ある学校です。焼津東小学校の児童は「黒潮っ子」と呼ばれ、校歌とは別に、長い間受け継がれてきた「黒潮っ子の誓い」というものがあります。運動会などの行事や節目の時に全校で、力強く大きな声で唱える姿は圧巻です。

児童数は315名（1学年2クラス+特別支援学級）で、私たちが子供の頃に比べてだいぶ少なくなりましたが、その分保護者や先生方との距離が近くなり、保護者の皆さんも積極的にPTA活動に参加してくれています。また、PTA内に有志の「お父さんの会」を設置している為、お母さんだけでなくお父さん方も活躍しています。中でも子供たちに人気の「フェスタ黒潮っ子」は、企画から運営までお父さんの会が中心となり行っています。



黒潮っ子の像と校舎

【黒潮っ子の誓い】

私たちは「しゃち」に乗り、
豊かで力強い黒潮の中を、力を合わせてかけめぐり、いつまでも、
どこまでも、ねばり強く学び求め、
高く広くのびる、黒潮っ子、黒潮っ子、黒潮っ子である

2 活動のねらい

コロナ禍で様々な行事が中止を余儀なくされ、これまで当たり前のように行事を行ってきたことの有り難さを身に染みて感じました。令和3年度もコロナ禍でスタートしましたが、子供たちが楽しく充実した学校生活を送れるように、保護者と学校が一体となって活動を進めてきました。

特に例年開催している「フェスタ黒潮っ子」や「PTAバザー」は、友達や親子で楽しむことができるPTA主催のイベントなので、仲間とのつながりの大切さや親子のふれあいを深めてもらいたいという思いから、コロナ禍でも開催を検討してきました。

3 活動の内容

8月以降、変異株ウイルスにより新型コロナウイルス感染が拡大し、静岡県においても8月20日から9月30日まで緊急事態宣言が発出されました。

この間、予定していた10月の「フェスタ黒潮っ子」及び12月の「PTAバザー」の開催について、PTA運営委員や先生方とメールやオンライン会議で検討を重ねてきました。その結果、子供たちの安全を最優先に、かつ準備期間も考え、「フェスタ黒潮っ子」の10月開催を見送り、12月の「PTAバザー」の中止を決定しました。しかし、子供たちが笑顔になれる取り組みができないか、その後も検討を続けました。

緊急事態宣言が解除され、10月末には県内の感染者数が減少し、静岡県のふじのくに基準がレベル2まで引き下げられたことを機に、「フェスタ黒潮っ子」を12月に延期開催、併せてPTAバザーの代替えとして「リサイクル制服販売会」を同時開催することを決定しました。12月の感染状況によっては中止になることも十分想定されましたが、PTA運営委員や部員、お父さんの会の皆さんが準備を進めていくことに賛同してくれました。

「フェスタ黒潮っ子」では、安心して参加できるように、事前に参加要件を示して感染対策の協力を呼びかけ、密にならないように特別教室や体育館に遊びブースを分散して配置し、少人数で回って遊べるように企画しました。「リサイクル制服販売会」は事前申し込み方式とし、参加人数を把握した上で会場決めを行い、検温、消毒、換気、教室内の人数調整を徹底することにしました。

有難いことに焼津市内の感染者がほとんどいない状態が続き、無事「フェスタ黒潮っ子」及び「リサイクル制服販売会」の開催日を迎えることができました。

今年度実施した遊びブースは①へんてこボーリング②黒潮っ子〇×クイズ③ニュースポーツ（モルック、ラダーゲッター）④ふくし体験（車椅子、目隠し体験）⑤工作（クリアファイルを使ったマスクケース、フェイスガード、割り箸を使った鉄砲、マジックハンドづくり）です。お父さん方が一生懸命に企画・準備を行い、当日はPTA運営委員と先生方にも協力していただき、多くの児童、保護者が参加し、大いに盛り上がりました。また、制服販売会も密になることなく安全に行うことができました。

フェスタ黒潮っ子の様子



リサイクル制服販売会の様子



4 成果と今後の課題

(1) 成果

今年度は焼津市でも8月以降に新型コロナウイルスの感染者が急増したため、児童の安全や行事の準備期間のことを考えると、PTA行事を行うこと自体が難しい状況でした。

その中で、「フェスタ黒潮っ子」を延期開催し、制服販売会を同時開催することができたのは、PTA運営委員やお父さんの会、先生方と何度も検討を重ね、どうしたら子供たちのために行事を開催できるか皆で知恵を出し合い、結果、同じ方向を向くことができたからだと思います。PTA行事は運営委員や各部員、保護者と先生方の協力なくしてはできません。一方的に方針を決めるのではなく、皆で話し合うことが大事だと感じました。

自粛が続く中、子供たちが楽しめる行事が開催できたことはとても嬉しいことであり、参加した児童が帰り際に「楽しかったあ!」「今度またやってね」と言ってくれたことが私たち保護者にとって一番の成果だったと思います。

(2) 今後の課題

企画・スケジュールの見直しは、PTA役員や部員にかかる負担が大きく簡単なことではありません。また、感染状況によっては子供たちの安全を考え行事を中止にする場合もあります。一方、コロナ禍で中止になったPTA行事は、現役員が企画・運営を経験していないため次年度以降にきちんと引き継ぐことができるか懸念されます。そのため、このような状況下でのPTA活動は、これまでに積み重ねてきた活動の意義を考え、子供たちのためにできることを皆で話し合い、柔軟に判断していくことが望ましいのではないのでしょうか。今後も子供たちの笑顔につながるPTA活動が継続されることを願っています。

心つよく 心やさしい子を育むために

～力を合わせてチャレンジランキング！～

藤枝市立葉梨小学校 PTA会長 八坂知子

1 はじめに

藤枝市立葉梨小学校は藤枝市の北部に位置し、山に囲まれた自然豊かな環境にあります。校舎とグラウンドの間には葉梨川が流れています。今年度創立134年の歴史ある学校ですが、宅地が増えたことから新しい地域と古くからの地域で成り立っています。児童数は現在787名で、学級数も急に増えたため、4年前には校舎も新しく増やしました。

また、同じ葉梨地区の西北小学校と共に令和4年度からの制服導入が決定しました。葉梨中学校も新制服導入となり、小中学校で同じデザインでの小中9年間の新制服となります。藤枝市で推進している小中一貫教育にも繋がり、子どもたちの意識もより一体感が生まれることが期待されます。

今回は、コロナウイルスの流行前まで毎年行われていたチャレンジランキングを紹介致します。



2 活動のねらい

チャレンジランキングは、PTA組織の中の育成部を中心に、子どもたちの知的な好奇心や身体能力を伸ばす目的で行われています。

普段の集団登校でのグループで参加するため、違う学年での組み合わせですが、仲良く協力し合う姿が見られます。自由参加となっていますが、多くの子どもたちが毎年楽しみにしています。

登校班が、一緒に登校するだけでなく協力し合う存在になるのも見どころです。

3 活動の内容

小学校の体育館に、役員が様々なコーナーを用意しています。子どもたちは通常の登校のように、登校班で学校まで歩いて行き、班ごとに参加します。

・豆つかみ

子どもたちに人気の豆つかみ。箸で豆を一粒ずつつまみ、移動させていくだけの単純作業ですが、毎年子どもたちは夢中になります。集中力を発揮し、制限時間内にどれだけ多く豆をつまんで移すことができるかを競います。

これは普段どれだけ上手に箸を使えているかということにも繋がり、正しく使えている子ほどランキングの上位をねらえます。低学年でまだ箸に慣れていない子たちも、高学年の子たちの上手な箸捌きを見て刺激を受けてくれれば、という役員たちの願いもこもっています。

・紙ちぎり

子どもたちの好奇心をくすぐる紙ちぎり。普通のA4サイズの紙を渦巻き状に細長くちぎっていき、切れずにどれだけ長くできるかという競技です。

チャレンジランキングの競技はどれもそうですが、とてもシンプルです。でも子どもたちは夢中で挑戦します。長

さを出したくて細くちぎる子、ちぎれないよう太くちぎる子、シンプルな作業が故にとっても性格が出ます。

上手に長く繋げていても、途中で切れてしまった時の、やってしまった！という表情は、いかに真剣にやっていたかが伝わってきます。

・輪投げ

お祭り気分を味わえる輪投げ。輪っかは役員たちの手づくりです。記録を残したくてつい足元の線を越えてしまったり、倒れるのではと思うほど前のめりになったり、いろんな姿が見られます。一投毎に一喜一憂する子どもたち、見守る同じ班の子どもたちも一緒に喜んだり残念がったりと、一体感が生まれます。投げ方を教えてあげる高学年の子たちの姿も見られます。

・片足立ち

とてもシンプルです。輪っかの中に片足で立ち、輪っかから出ずに立っている時間を競います。身体能力の向上に繋がればというねらいですが、子どもたちは単純に楽しんで挑戦してくれます。安全のため目を閉じる必要はないのですが、自ら難易度を上げる子もいます。バランスを取るため両腕を広げる子、片足の曲げ方も前に上げる子や後ろに曲げる子。ルールは片足で輪っかから出ない、だけなのでそれぞれのバランスの取り方が見られます。

・平均台じゃんけん

これはグループ競技です。3つの平均台を角度をつけて並べ、両端からそれぞれ班から一人ずつ出して平均台を歩いていきます。出合ったところでじゃんけんをして、負けたほうは平均台を降り、次の人が出ます。じゃんけんに勝って相手の端のところまで行き着けば勝ちです。グループ戦なので自然と盛り上がり、一体感も生まれます。チャレンジランキングの中で一番熱気の上がるコーナーで、役員も子どもたちにケガのないよう注意して見守ります。

すべての競技の上位者（チーム）はホワイトボードに掲載され、記録が出る度に書き換えられます。挑戦は何度でもできるので、記録を見て再度挑戦する子どもも多く、時間いっぱい楽しんでくれる姿を見ると嬉しくなります。

4 成果と今後の課題

登校班での参加・活動により、学年を超えて一体感が出ること、また、地区ごとに動くのでPTAとしても管理しやすいというメリットがあります。シンプルながらも個人戦・団体戦があり、応援し合う、協力し合う心も育ちます。

子どもたちのみならず、保護者も毎年楽しみにしているチャレンジランキングですが、コロナ禍のため昨年から見合わせています。役員の負担もあることから廃止することも検討しましたが、かたちを変えてでも続けて欲しいという声が多くありました。今後はコロナ対策・役員の負担軽減を課題に、新しいかたちでチャレンジランキングを継続できればと考えます。

繋げよう 笑顔の輪

島田市立島田第三小学校 PTA会長 初鹿野 佳奈

1 はじめに

本校は、島田市中心街を東西に走る「本通り」(旧東海道)から大井川までの市の中心部南地域を学区とする小学校です。また、学区内を東海道線が走り、南北に二分しています。北側は、主として商店街、南側は、大小の工場が散在していますが、多くは住宅地です。旧東海道を抱えていることもあり伝統ある地域で学校に大変協力的です。

地域の方たちによる登下校の見守り、クラブの講師、鹿島踊り（島田大祭での伝統ある踊り）の指導など地域に支えられた学校です。

そのような島田第三小学校においてPTA活動の中心として行われてきたのが、「フェスタ三小っ子」です。令和2・3年度は、新型コロナウイルスによる影響で開催できませんでしたが、子供たちが、大変楽しみにしている活動です。そのフェスタ三小っ子について紹介をさせていただきます。

2 活動のきっかけ

子供たちの笑顔づくりが、フェスタ三小っ子の活動のきっかけです。保護者が地域の方たちと協力して、子供たちの笑顔がたくさん見られる活動をしようということが始まりと伺っています。10年以上続く活動です。子供たちの笑顔で学校が明るくなります。その笑顔づくりを通してPTAの方たちの喜び、親睦を深めていくことが、この活動の意義です。子供たちの笑顔づくりを通して感じられるPTA役員の皆さんの達成感は、保護者と学校の良い関係づくりにより影響を与えてくれています。

3 活動の内容

<企画>

PTA本部役員と3つの専門部から選出されたフェスタ実行委員、地域の代表の方が集まる実行委員会を通して企画を進めていきます。出店するお店、お店で売る品物の準備、PTA本部によるイベントの企画など5ヶ月前から定期的に会合を行います。

輪投げ、お菓子くじ、わたがし、びっくりボール拾い……。各専門部で開くお店を分担します。子供たちの笑顔を想像しながら準備を進めます。

また、多くの方に楽しんでいただくようにフェスタ実行委員で地域や近くの幼稚園などにチラシを配り、呼びかけをしています。そのため、地域の皆さんも楽しんでいただけるイベントとして知られています。

<当日>

当日の午前中は、授業参観を行い、午後にフェスタ三小っ子を行います。土曜日に設定をして地域の方も含め多くの方が参加していただけるようにしています。

第三地区社会福祉協議会（地域自治会組織）の方たちには、輪投げなどを楽しめるブースを用意していただきました。地域の支援をいただき無料でのお菓子配布なども行いました。

一昨年度（令和元年度）は、FM島田のパーソナリティーの方にきていただきBGMを流していただいたり、歌で盛り上げていただいたりと大変盛況なイベントとなりました。子供たちも一緒に踊ったり歌ったりと、一体感を感じ



専門部による出店

られる思い出深いフェスタ三小っ子となりました。また、上級生が下級生と仲良く関わる姿も見られます。学年を超えて楽しい時間を過ごすことができることもフェスタ三小っ子の良いところです。



第三地区社会福祉協議会による出店



F M島田パーソナリティーによる演奏

4 おわりに

新型コロナウイルス感染による影響で、今までのような「フェスタ三小っ子」は実施できないということは感じていますが、しかし、PTA活動として子供たちの笑顔づくりについては、今後も継続していくことは間違いありません。本年度も本部役員会で子供たちの笑顔づくりができる良いアイデアはないか検討を進めてきました。思うような活動を行うことはできませんでしたが、PTAという組織として、子どもや学校が明るく元気になる活動をしていきたいと願っています。「子供たちの笑顔づくり」この思いは、今後も引き継いでいきます。形を変えたフェスタ三小っ子が行われ、子供たちの笑顔づくりを通して学校、地域が明るくなることを期待しています。



〈実践事例提供：西部地区〉

- 森町立旭が丘中学校
- 磐田市立富士見小学校
- 湖西市立知波田小学校
- 浜松市立和田小学校

地域に支えられるPTA活動

森町立旭が丘中学校 PTA会長 井口寧了

1. はじめに

森町は、県西部の自然豊かな山ふとりに広がる町です。本校の学区はJR袋井駅から約10km北に位置する一宮地区、園田地区、飯田地区の3地区から成り立っており、東部には太田川、西部には一宮川が南北に流れています。

学校は学区のほぼ中央にあり、公立森町病院、町の文化会館や併設される図書館も近い位置にあります。また、学校周辺には田畑が多く、米・茶・次郎柿・レタス・梨・トウモロコシなど年間を通じて多くの農作物が生産されており、高台に建つ校舎からは自然豊かな田園風景が望めます。

他の市町同様に近年は少子高齢化や人口減少が町の課題となっており、町立中学校のうち1校が令和元年度末に統合により閉校され、現在は本校を含め2校が存在します。本校生徒数も、昭和37年度に最大であった813人が現在249人となっております。



校舎全景



PTA 親子奉仕作業

2. 活動のねらい

PTAの活動方針は「一人一人が、かけがえのない存在であることを感じながら、仲間と笑顔で繋がる強い子どもを育てる」とし、以下の5項目を実践目標に掲げて活動を行っています。

- ①子供と一緒に『働く』『学ぶ』『食べる』『楽しむ』時間を作り、命の大切さを伝え、力強く生きる力を育む機会を増やす。
- ②学習・清掃・部活動・生徒会活動・ボランティア活動・社会体育活動に取り組む姿を見て、子供の可能性に気づき、子供を励ます機会を増やす。
- ③毎日の家庭学習に寄り添い、集中する時間ができるように、テレビや携帯電話から離してあげることで規範意識を高める機会を増やす。
- ④PTA行事や学校行事、地域行事に積極的に参加、協力する姿を見せることで、協調性や仲間の大切さを伝える機会を増やす。
- ⑤仲間と活動する子供達を応援する大人が、地域社会に密接に関わることで絆を深め、地域の教育力を向上させる機会を増やす。

3. 活動の内容

新型コロナウイルス感染症の影響で昨年に続き今年も学校行事やPTA活動は多くの制約を受けております。行事の中止や例年とは違う形を模索する中で試行することが求められた一年でありました。

本校のPTA組織は、正副会長、各専門委員の代表、学年委員長、書記で構成される総務委員会のほか、施設委員会・文化委員会・研修保健体育委員会・校外安全委員会・学年部委員会で組織されており、各委員会の主な活動は以下のとおりです。

(1) 総務委員会

P T A総会、役員会の実施。各委員会や学校、教育委員会行事への参画などを行っています。昨年度は紙面開催となったP T A総会は、各教室と会議室をリモートで繋ぎ、人流が密にならない工夫をして実施しました。



初めての試み（リモートによる P T A 総会）



資源回収の様子

(2) 施設委員会

例年は2回実施していた資源回収も、夏の緊急事態宣言を受け、後期を中止としました。代わりに校舎敷地内に回収用コンテナを一定期間設置し、密集を避けるよう配慮し実施しましたが、初の試みで回収量が少ない状況となり、課題が残りました。

(3) 文化委員会

年2回のP T A新聞発行を主な活動としております。コロナ禍で中止となる行事も多く、紙面の内容について苦慮しました。

(4) 研修保健体育委員会

「夢を叶える夢のみかた『中学生の睡眠』」をテーマとして、はごろも教育研究奨励会様の御支援で講演会を企画したほか、教育委員会の主催する薬学講座等へ参加しました。例年テント設営や駐車場整理等を行っている体育大会は、時間をずらした学年別開催となりました。



教育講演会の様子



(5) 校外安全委員会

各季の街頭指導、交通安全指導、少年補導等を実施しています。例年7月と10月に実施される地域祭典が中止となったため、期間中の巡回指導も中止となりました。

(6) 学年部委員会

草刈りなどの奉仕作業や親子体験活動、学級懇談会などを実施していますが、緊急事態宣言のため下期の奉仕作業は中止となりました。校内の草が伸び放題になったため、学校地域協働活動推進員さんから地域有志へ草刈りボラン

ティアが提案され、学校が地域の協力のもとに成り立っていることが実感されました。

また、毎年6月から7月にかけて協力員と評議委員が協力し、町内会を単位とした通学区別教育懇談会を開催しており、資源回収に関する打ち合わせや祭典・ボランティアなど地域行事への参加調整のほか、道徳教育共通実践項目推進状況の確認などについて話し合いが行われております。

4. 成果と今後の課題

学校やPTA活動に限らず、全ての社会生活において、ここ2年間は新型コロナウイルス感染症による大きな影響を受けてきました。一年目には過去に例のない全国的な長期休校も経験し、修学旅行など大切な思い出に残る行事も中止されました。しかし、2年目となった本年度は実施のための方法を模索し、様々な工夫により実施できることが立証された一年だったと感じます。学校に高速大容量通信環境を整えるGIGAスクール構想も進められ、リモート学習なども可能となりつつあります。

少子高齢化とともにPTAの会員数も減少する中で労働環境の多様化や共働き家庭の割合も増加しており、PTAも従来と同じ活動を同じ方法で維持していくことは今後難しくなるかもしれません。学校に限らずPTA活動においても、連絡や調整など省力化できる場面には、新しい技術を上手に取り入れることが必要とも感じました。また、一年の役員を経験させていただき、様々な方とお話させていただく中で、地域の子供達が地域全体で見守られていることをあらためて実感した一年でした。今後は、始まったばかりのコミュニティ・スクールが進められていく中で、地域とともにある学校づくりがよりよい形で維持発展されていくことを願います。

ピンチをチャンスに変えて

～ 新型コロナウイルスによる制限下での新たなPTA活動の模索 ～

磐田市立富士見小学校 PTA会長 木村光男

1 はじめに

本校は磐田市のほぼ中心に位置し、見付地区の東半分にあたります。昭和55年4月に開校され、地域の歴史は比較的新しく、新興住宅が中心となり、開校以来PTA会員はもちろんのこと、地域住民からも資源回収などの学校諸活動へ積極的な参加協力があります。今年度の児童数は623名、23学級で、私たちは、親しみを込めて児童のことを「富士見っ子」と呼んでいます。

本校の特徴の一つとして、平成22年に校庭の全面を芝生化したことで、体育や昼休みなどに緑の綺麗な芝生の上で、富士見っ子達が元気いっぱい体を動かすことができます。また、今年度の大きな特徴として、県教育委員会より、GIGAスクール構想（1人1台端末）下における「主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善」調査研究事業実践校の指定をいただいたことも特徴として挙げられます。今年度、1人1台のタブレット端末も配布されました。このような環境の中で、市内小中学校のオンライン授業実施の先駆けとして、新たな授業の形を取り入れ実施しています。



全面芝生の校庭



GIGA スクール構想による授業

2 活動のねらい

新型コロナウイルスの影響により、令和3年度は例年通りのPTA活動が実施できない状況を受けて「風通しの良いPTA活動を目指して」というスローガンを掲げました。会議や会合等の集合ができない中でも、人は密にならなくても連絡は密にして、家庭、役員、学校間の意思疎通ができるようにしました。新型コロナウイルスに配慮し、活動による集合時には空気を入れ替え、様々な制限下の中、今まで通りの形で活動できないものは、形を変えて新たな事に挑戦し、新しい風を吹かせることをねらいとして活動を進めてきました。

3 活動の内容

(1) 校庭の芝生管理

校庭の全面を芝生化して以来、学校職員の皆さんが主となり、地域のボランティア等の御協力により、芝生の手入れ等の管理を実施しています。夏休みの人手が少ない時期の散水については、数時間置きにスプリンクラーの位置を変える必要があるため、比較的時間の掛かる作業となります。新型コロナウイルスの拡大により、例年行われていたPTA主催によるバザーや講演会、そして運動会の一部の行事について、中止や縮小をせざるを得ない状況でした。そこで、新たな試みとして、各担当のPTA委員の皆さんで当番を組み、夏休みの期間中に芝生の散水を実施していただき、効率よく芝生の管理をすることができました。



スプリンクラーによる芝生の散水

(2) 資源回収

回収された資源は、富士見っ子達の役に立つものとなるため、PTAと学校職員が中心となり、各家庭前や街角な

どに置かれた資源を担当委員が車両で回収し、回収用コンテナへ入れる形で実施していました。新型コロナウイルス拡大の中であっても、感染対策を確実に実施して屋外で活動することができることや、他の活動にも中止や縮小された活動があるため、例年3回行っていた資源回収を年に4回行うこととしました。しかし、新型コロナウイルスによる非常事態宣言により、3回目を中止せざるを得ない状況となった時に、回収業者の方に回収用コンテナの設置時間を延長していただき、協力者各自が資源等を持ち込んで、コンテナに入れることによって、無事に3回目の資源回収を実施することができました。



資源回収の様子

(3) 親子ふれあい体験

親子のふれ合いを深めてもらうことを目的とし、毎年恒例で夏休み期間に親子ふれあい体験の活動を行っています。その活動は、企業や団体等の協力により親子で楽しめる様々な工作や体験であり、希望者の内、約40家族程度の規模で実施をしています。昨年は感染症拡大により、実施をすることができませんでした。今年は感染症対策を確実にを行い、小規模で実施しようと考えていましたが、感染症拡大により例年であれば協力して下さっていた企業や団体等が、実施することができないとのことで、今年も中止とすることを考えていました。しかし、磐田市の埋蔵文化センターが主催し、小学生を対象として、土器の発掘体験と土器作り、弓矢による狩猟体験を募集するチラシを見付け、問い合わせをしたところ、協力をして下さることがわかりました。そこで、粘土による土器作りと、弓矢による狩猟体験を実施することとし、募集と準備を進めていきました。希望者が多かったのですが、感染予防のため抽選により、20家族を分散して行う計画で粘土を購入、担当役員等も決めていたところ、新型コロナウイルスによる非常事態宣言が出てしまい、今回もやむを得ず中止とするしかない状況となりました。しかし、埋蔵文化センターのご厚意により、粘土と土器作りの説明書を当選者に配布することができ、各家庭で親子ふれ合って、土器作りを体験していただくことができました。



粘土による土器作りのサンプル

4 成果と今後の課題

新型コロナウイルスによる様々な制限下で、中止や縮小せざるを得ない活動が多くありましたが、地域、PTA会員、学校職員の皆様のご協力により、今まで通りできないものは、形を変えて新たな事に挑戦し、いくつかの活動を進めることができました。

新型コロナウイルスにより、生じたピンチをチャンスと捉え、恒常的に進めてきた行事や活動を見直していくために、学校職員とPTA本部役員とで意見交換をしました。また、男女共同参画などの様々な環境や時代の変化に合わせたPTA組織の在り方についても見直していく必要があることを見出し、PTA会員の様々な意見を集めています。その結果を基に、これからのPTA活動の新しい形について、未来を担う富士見っ子達のために、組織全体で協力し、改善していくことを課題として進めていきたいと考えています。



PTA 活動等のアンケートを実施

学校と家庭・地域をつなぐP T A活動

湖西市立知波田小学校 教頭 山本 ゆかり

1 はじめに

湖西市は、静岡県最西端に位置し、自動車関連企業や電器関連企業の工場が数多くあり、夜間人口約6万人に対して昼間人口は約7万人になるという工業都市である。

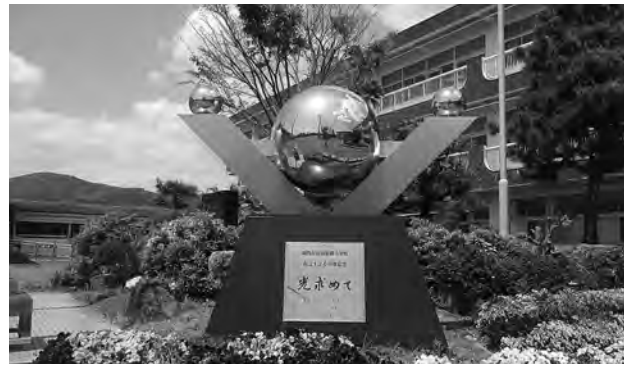
本校の学区の西は湖西連峰で愛知県に、北は浜松市三ヶ日に、東は浜名湖に接し、山と湖のある風光明媚な地域である。豊かで美しい自然を守り、産業や文化を守り育ててきた地域の人々は、温かい人の和と人情の結び合いを大切にしながら、その文化を脈々と現在に受け継いでいる。保護者や地域の方々は、学校に大変協力的で、各種の学校行事には、ボランティアとして多くの参加がある。

知波田小学校は明治6年に大知波向雲寺本堂を校舎として明義学舎と称して創設された。平成元年に作った120周年記念モニュメントがシンボルである。令和5年には創立150周年を迎えることになる。

令和3年度は、各学年1クラス及び特別支援学級2クラスの合計8クラスで、児童数は141名である。学校教育目標を「美わしの里に光り 輝く知波田の子」と掲げ、「心豊かで思いやりのある子」「進んで学ぶ子」「心身を鍛える子」を目指し教育活動を進めている。

P T A組織は、会長を中心とした本部役員を活動の核とし、教養部、厚生部、補導部の3つの専門部がある。本部役員メンバーに、6名の専門部長、副部長を加えて構成する幹事役員による幹事会は、年に4回開催し、予算案・決算、事業計画、会計に関わる事項等を審議する。P T A活動の精選をする中で幹事会の回数も見直してきた経緯がある。

3つの専門部は、それぞれ部長、副部長を中心に活動している。主な内容としては、教養部はP T A広報誌の編集発行、厚生部は学校保健委員会への協力参加、給食試食会の企画運営、補導部は登校時の街頭指導、交通安全にかかわる行事への参加協力などが挙げられる。専門部の活動も新型コロナウイルス感染症予防により引き続き制限されているが、できる範囲で行っている。



創立120周年記念で創設したモニュメント

2 活動のねらい

P T A活動について、保護者や地域の方々には理解があり、協力的である。しかし、P T A会員数が108と、児童数とともに減少しており、活動の在り方を常に見直している状況である。令和3年度は会長、副会長、専門部長等で構成する幹事役員を12名から10名に減らしたり、活動を精選したりした。子供を中心に据え、何ができるかを話し合い、進めている。子供たちの健やかな成長を祈りながら、地域と連携して安全で過ごしやすい環境をつくることを活動のねらいとしている。「学校と家庭・地域をつなぐP T A活動」がテーマである。

3 活動の内容

(1) リサイクル活動

幹事役員を中心に6月と1月の年2回、リサイクル活動を実施している。事前に地域の各家庭に回覧板による活動の予告をする。実施当日は、P T A会員全員が協力して資源物の回収に回り、学校敷地に設けた集積場所に運搬する。校区を5つに分けて回収しているが、世帯数に対して回収人数が足りない地区があるため、他の地区への応援態勢も整えた。また、集積場所ではP T A幹事役員や教職員が資源物を業者の車に積み込んだり、整頓したりする。

リサイクル活動は、屋外で使う大型テントや図書室の本、本棚など教育活動に必要な物品を購入することを目的に実

施している。しかし、近年はリサイクル回収品の買取単価が下がり、資源物を回収しても思うような収入が得られないという課題が生じている。ねらいを再確認するとともに、活動の見直しを図る必要にも迫られている。

(2) 奉仕作業

5月と9月の年2回、奉仕作業を実施している。(令和3年度は新型コロナウイルス感染予防のため中止)

この活動は、全PTA会員を2つのグループに分けて、草刈りや校舎内外の環境整備を行うものである。日頃、小学生では手が届かない箇所の清掃をはじめ、学校敷地の北にあるピオトープの手入れを協力して行う。安全を第一に掲げ、短時間で効率よく作業するよう努めている。今後も継続していきたい活動である。



全PTA会員が参加するリサイクル活動

(3) PTA広報誌

教養部が年2回PTA広報誌「ちばた」の編集発行を行っている。(令和2、3年度は年1回発行)

広報誌は、年間を通して、学校行事や学校生活の様子などが保護者目線で編集されている。また、使われる写真や記事については、教職員の全面的な協力を得、教養部員が見応えのある紙面を作っている。市内の小中学校PTAで編集発行した広報誌を交換し、編集の参考にしている。

(4) PTA給食試食会

本校は市内でも珍しく食堂を有し、全校児童が一堂に会して給食を食べている。そこでの食事の様子と指導されるマナー等について知り、家庭での食育につなげるために、給食試食会を行っている。(令和2、3年度は新型コロナウイルス感染予防のため中止)

毎年、多くの保護者が試食会への参加を希望する。30名程度の保護者が食堂の一角に座り、児童の配膳から食事、片付けの様子までを参観するとともに、給食を試食し味や量を確認する。家庭と学校での食事の様子の違いや全校児童が静かに食事をする様子に驚く参加者が多い。栄養士の講話を聞く時間も設けている。



食堂での給食試食会の様子 (R元)

4 成果と課題

PTA活動を核として、学校と家庭・地域をつなぎ、未来を生きる子供の健全な育成に向けて諸活動ができています。学校教育目標の目指す子供の姿や子供の成長の様子を積極的に発信することで、地域の方々に理解いただいていることも成果です。

課題としては、PTA会員数の減少に伴った組織の見直し、活動内容や方法の見直しが挙げられる。たとえ今後、PTAの規模は小さくなったとしても「学校と家庭・地域をつなぐPTA活動」ができるよう模索していきたい。

子供達・先生方・理事みんなが楽しめるPTA活動を

～ コロナ禍でも子供達の笑顔のために ～

浜松市立和田小学校 PTA会長 高橋 靖博

1. はじめに

本校は天竜川の治水事業に生涯をささげた金原明善翁を創始者と仰ぎ明治6年創立（今年149年）という歴史と伝統ある学校です。世界で初めてブラウン管に「イ」の文字を映し出すことに成功し、テレビの父として知られている高柳健次郎氏は、本校の卒業生です。「自分を高め、ともに進む」を学校教育目標に据えて、生徒数635名。485世帯の生徒が未来に向かってたくましく生きる力を育み地域と共に歩む学校づくりを進めている学校です。



伝統ある和田小学校校舎

2. 活動のねらい

今年度も新型コロナウイルス感染拡大により、令和2年度同様に今までと同じような学校生活やPTA活動はできませんでした。しかし、コロナ禍でも『子供達に笑顔になってもらいたい!!』と【子供達・先生方・PTA理事全員が楽しめる活動】を今年度のスローガンとして活動してきました。またコロナで地域の皆さんとのつながりや連携がとりづらい状況の中、持続可能な新たな地域貢献を作ることも考えました。

3. 活動内容

ここで今年度取り組んだ内容を紹介させていただきます。

① 挨拶運動にて

本校は毎月1回PTA理事が朝、校庭で挨拶運動をしております。この活動は以前から続けている活動ですが今年度は子供達にもっと元気に挨拶してもらうために10月29日にハロウィン12月7・8日にクリスマスにちなんだ形で挨拶運動を行いました。理事全員でお揃いの衣装を自分達で作り大きな声で挨拶できた子供達にミニ賞状を渡し、学校マスコット（さるる・さるこ）にも衣装を用意して行ったところ子供達から「楽しく挨拶できた」との声を聴くことができ理事も先生方も朝からハイテンションになりました。



ハロウィン挨拶運動



配布したミニ賞状

② 標語オンライン表彰式にて

今年度の夏休みもコロナにより外出が難しい休暇となりました。そこで夏休み中親子で過ごす時間も多くなる為、親子で考えてもらう課題として低学年は『えがお』 中学年は『かぞく』 高学年は『きぼう』というテーマで標語を作ってもらいました。その作品をPTA理事による投票で各学年優秀作品を3作品選び、更に最優秀作品を選びました。10月5日の朝会時オンライン形式で笑顔いっぱい表彰式を行う事ができました。



オンライン表彰式

③ 2学年での運動会にて

11月6日に開催された今年度の運動会。コロナ禍により1.2年・3.4年・5.6年での2学年ごとで行う形となりました。例年とは全く違う形式により先生方と何度も話し合いを重ね準備していきました。学校行事の中でも最も盛り上がり一体感のあるイベントのため「この状況の中で何ができるか??」考えた末、応援合戦もなかった為それぞれの開会式で応援団となり子供達はもちろん、保護者や先生方全員が一体になれるように掛け声をかけエールを贈りました。



応援団としてエールを贈りました

④ 地域との新たなつながりにて

例年行っていたPTAバザーがコロナ感染拡大により中止せざるを得ない状況が令和2年度から続きました。そのため地域の皆さんとのつながりも少なくなったため学区内にたくさん人が集まるお店に目を向け新たなつながりを作るようにしました。

1、『トナーカードリッジ回収箱の設置』

ベルマークの点数に換算して子供達の活動費用に役立ててもらえるように設置をしてもらえるお店に交渉して行う事ができました。たくさんの方にご利用頂くことができました。

2、『幸せの黄色いレシートキャンペーン』参加

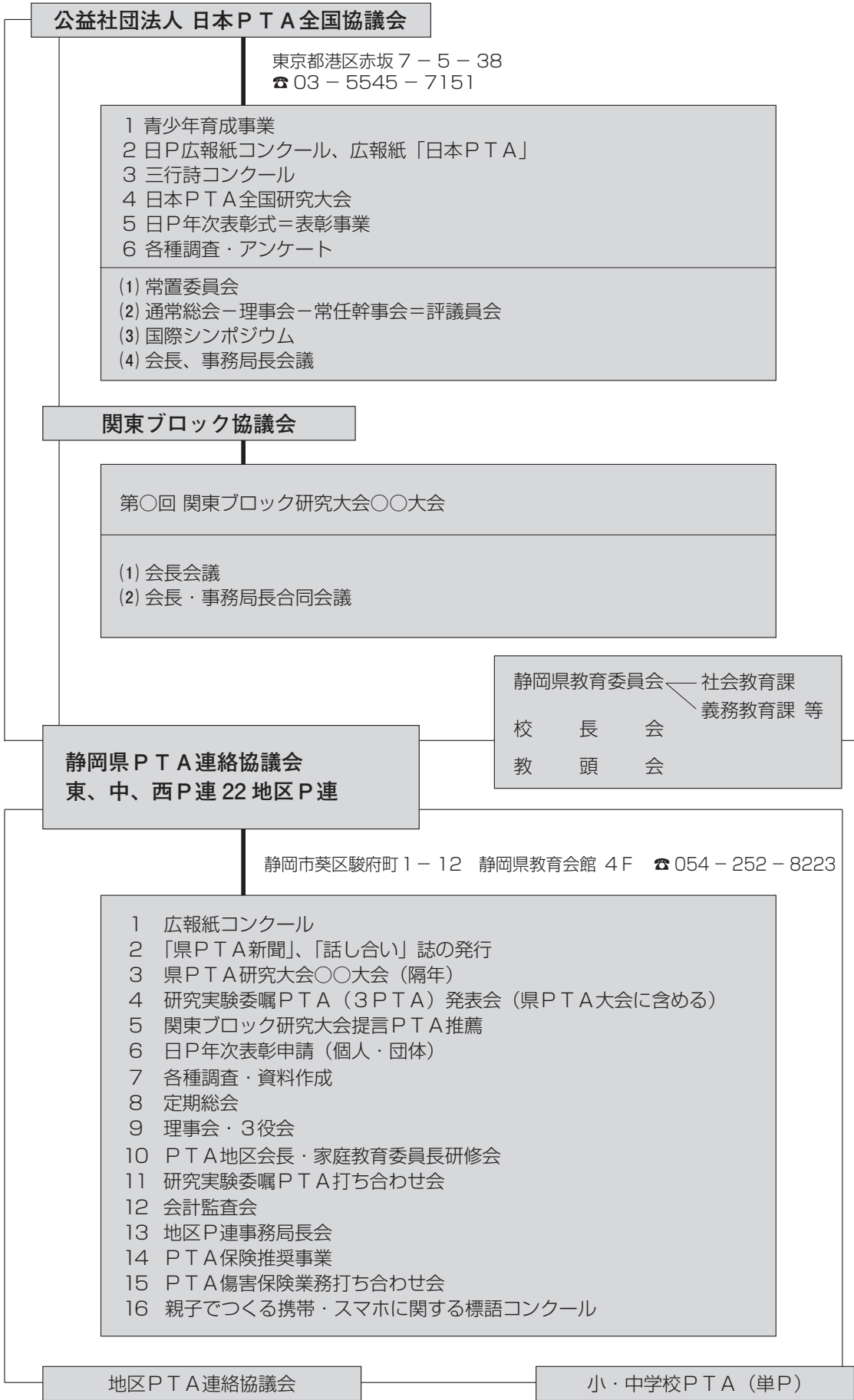
本校学区の中で買い物をする場所の中で一番利用されるお店に投函BOXを設置することができました。子供達への資金源の目的と本校の地域貢献のPRにもなり新しい形で地域とのつながりを作りました。

4. 成果と今後の課題

コロナ禍での活動で制限が多い1年でした。だからこそ今までの価値観やあたりまえを変えるきっかけを作れたことが大きな成果だったと思います。新たな発想やアイデアを出し合うことでPTA理事の連携も高まりました。

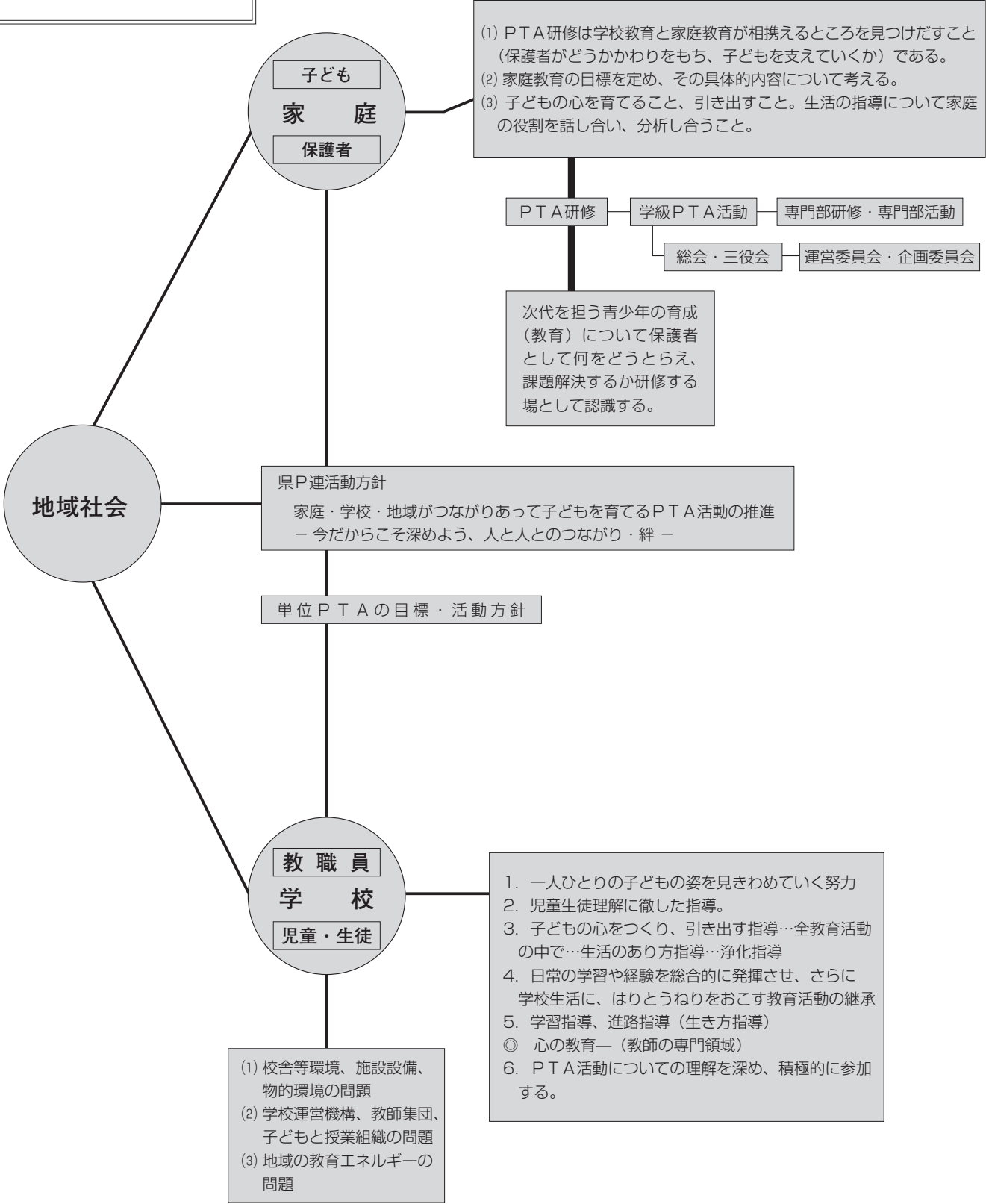
今後はアフターコロナの中で更に画期的で効率的なPTA活動を追求し会員になって良かったと思って頂ける活動を検討していくことが課題だと思います。

静岡県P連と日Pと関ブロ



家庭・学校・地域
社会が連携して、
子どもを育てる

1. 子どもの心身の育成（体験・指導等による）
2. 子どもを守る（犯罪・交通・事故等から）

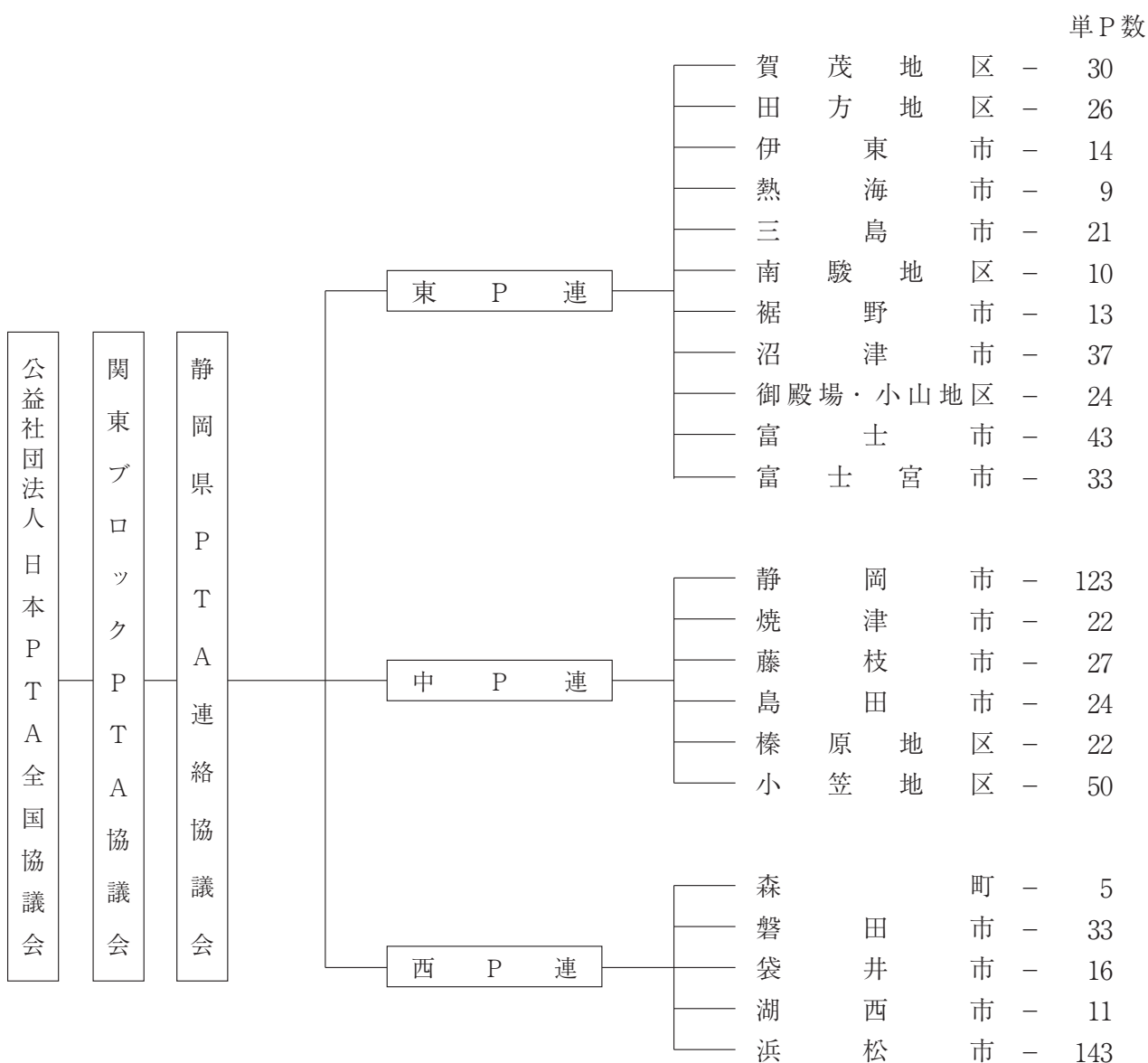




県P連は、22地区P連で組織されています。

令和4年度

— 組織図 —



令和3年度単P数 (計 736)

研修資料「話し合い」 第66号

令和4年5月1日 印刷

令和4年5月30日 発行

編集 静岡県PTA連絡協議会事務局

発行 静岡市葵区駿府町1-12

静岡県教育会館4F

静岡県PTA連絡協議会

TEL 054-252-8223

FAX 054-251-9672

印刷 静岡市葵区流通センター12番1号

大日三協(株)

TEL 054-263-2435

FAX 054-263-2409